明治三十九年十一月廿五日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百四號目次

名家演壇

誤解せられたる哺育法　警察醫長　栗本庸勝君

大家談叢

肺の話　N、N、

育兒談　瀨川博士

白濁の小便●便秘●身體上の監視●結核性の兒童●感冒の用心

婦人の神經衛生　醫學士　田村化三郎君

神經の衛生とはどんなこと●痩せたる衛生家●肥へたる不衛生家●眞正の衛生

不老不死の術　松村介石氏

高崎支會講話

木伊乃の化胎兒實驗　講師　乾宗太郎君

季節料理

信田卷たいこん●茶碗●きがら茶めし●加藥飯●深皿●ソーセーヂ●エグスソーフル

雜錄

豆腐の滋養●マッサーヂ自療法●小學生徒と飲料●吃の有力の原因●小兒と感冒●人乳中の黴菌●白米の良惡●精神病原因●耳だれ●電音診察●鼠の性質●腸の長さ其他雜報

質疑欄

寒冒●鼻血●手足のあれ●小便近きこと

大日本婦人衛生會記事

本會十一月例會●山形宇都宮米澤新潟支會例會●本支會入會者●新刊幷交換雜誌●轉居等

大日本婦人衛生會

十二月例會告知

來十二月一日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校内に於て本年の納會を開き左の講話有之候萬障御繰合御知友御誘引御來會有之度候也

一女子精神の衛生　醫學博士　榊保三郎君

一疾病の話附料理の衛生　ドクトル　富士川游君

稟告

年末に相成整理の都合も有之候間會費未納の御方は至急御送附相成度候也

明治三十九年十一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相携て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて切日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し併之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす兹に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸賢姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月　發起者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に設け地方に便宜支會を設く●第三條 本會員たらんと欲する婦人は同人にて入會することを得●第四條 入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條 會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受るを得●第八條 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に奉出るものとす●第十條 本會に左の役員を置く 會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條 會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は[illegible]●第十二條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は[illegible]●第十五條 會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條 集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の[illegible]あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め[illegible]會を開くことあるべし●第十七條 本會學識經驗ある人々に衛生上の講說演說談話を指示し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を[illegible]●第十九條[illegible]（但衣服は總て質素たるべきこと）[illegible]●第廿一條[illegible]●第廿五條 地方に於て[illegible]にして支會を設立せんとする[illegible]員にして支會に加入したる者の[illegible]支會の規案に依るものとす●第廿七條[illegible]得●第廿八條 本會の雜誌は支會に[illegible]本會に送付すべし[illegible]同じ●第廿九條 支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條 本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條 會員又は會員外の者にして金錢若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登記し但本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條[illegible]べしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは[illegible]として別に返信料を添へらるべし（郵券送一錢以上）●第卅三條 會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 濱尾作子

幹事（いろは順）
鳩山春子
仝 羽田三輪子
仝 岡田德子
仝 高木かう子
仝 山本多稼子
仝 松平芳子
仝 三浦教子

評議員 石川貞子
仝 岩下ゆか子
仝 濱田捨子
仝 長谷川仲子
仝 仁禮壽賀子
仝 四[illegible]升子
仝 穂積歌子
仝 土肥多越子
仝 緒方悦子
仝 岡山とし子
仝 小川孝子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山勲子
仝 吉武輝枝子
仝 丹波貞子
仝 高橋操子
仝 田村きよ子
仝 男爵夫人 南部段子
仝 中濱芳子
仝 子爵夫人 松井正子
仝 岸邊子
仝 三宅藤子
仝 宮本樂子
仝 宮下咲子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 理學博士 ドクトル 醫學博士 ドクトル 醫學博士 理學博士 赤十字 醫學士 醫學士 醫學士 貴族院議員 醫學博士 法學博士 東京 醫學博士 新潟 小兒科 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 步兵中佐 醫學博士 醫學博士

●入澤達吉君 ●飯島魁君 ●伊澤信平君 ●色川圀士君 ●伊東祐彦君 ●飯盛挺造君 ●伊藤隼三君 ●石川千代松君 ●岩井禎造君 ●石原久君 ●廣瀬雄一君 ●石原喜久太郎君 ●濱尾新君 ●濱田玄達君 片山和夫君 秋原[illegible]四郎君 ●芳賀榮二郎君 ●長谷川泰君 ●長谷川一詮君 小原利之君 ●岡田榮吉君 ●林春雄君 ●佐藤達次郎君 ●緒方正規君 ●堀内文次郎君 ●土肥慶藏君 ●岡田和一郎君

醫學博士 醫學士 醫學博士 一等藥劑官 醫學士 男爵 醫學博士 工學士 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學博士 ドクトル 醫學博士 法學博士 醫學博士 新潟 男爵 醫學士 醫學士 貴族院議員 藥學博士 醫學士 藥學博士 醫學士 醫學士 醫學士 二等軍醫正 醫學士 三等軍醫正 大日本教育會長 理學博士 醫學博士 男爵 藥學博士 醫學博士

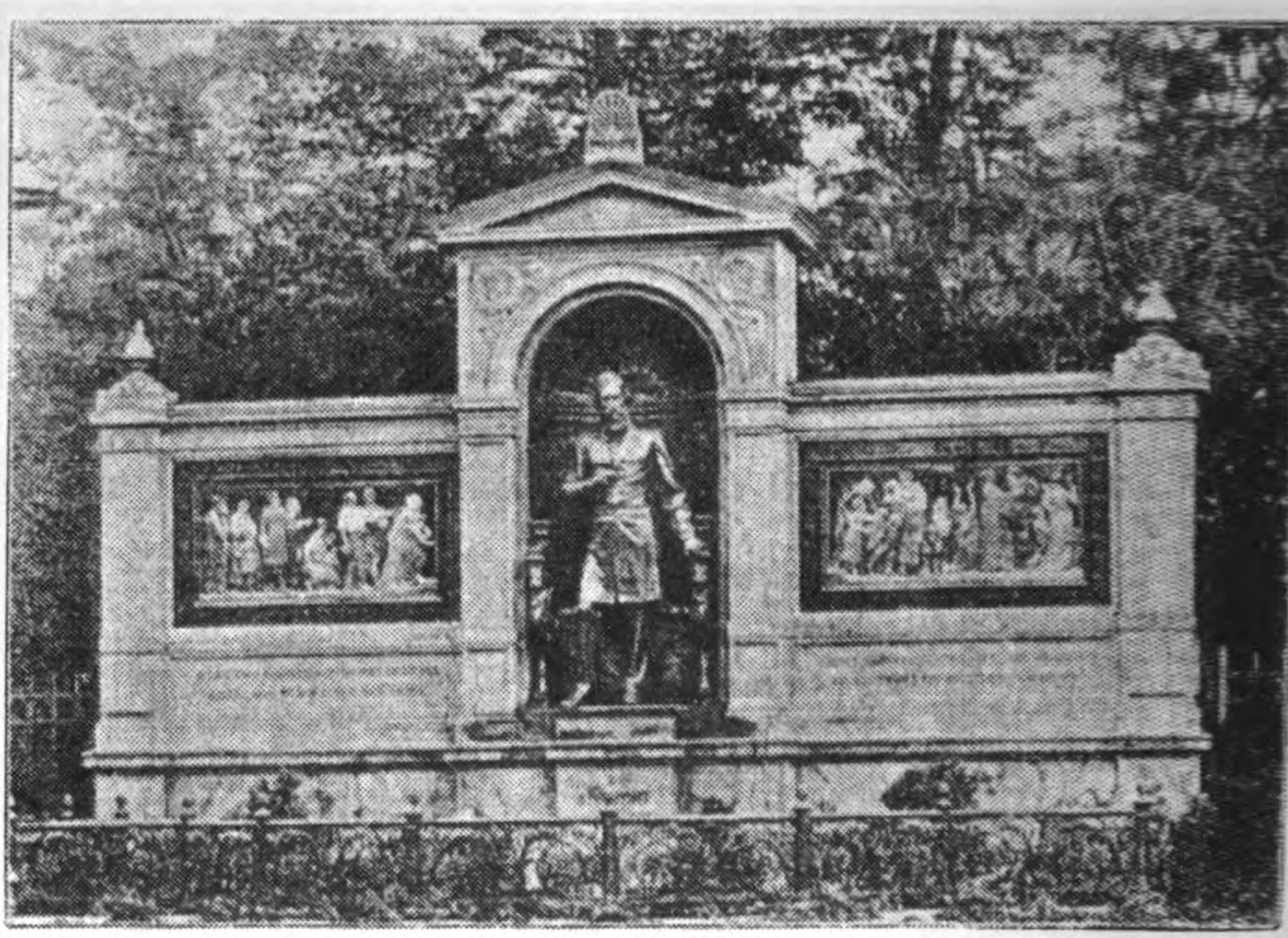
●大澤謙二君 ●大内秀治君 ●大澤岳太郎君 ●恩田重信君 ●若杉喜三郎君 ●加藤弘之君 ●加藤照麿君 ●賀古鶴所君 ●河本重次郎君 ●片山國嘉君 ●川上雅武君 ●櫻川龜一郎君 ●金杉英五郎君 ●笠原光興君 ●宮澤光德君 ●高橋順太郎君 ●高山紀齋君 ●高木兼寛君 ●高木智三君 ●田代義德君 ●川代亮助君 ●高崎正臣君 ●竹中成憲君 ●高山新安君 ●高橋辰五郎君 ●丹波敬三君 ●高橋良碩君 ●田所[illegible]君 ●田村光顯君 ●久保猪之吉君 ●米山彦郎君 ●屋野保光君 ●宮本叔君 ●橘井忠閑君 辻新次君 ●坪井正五郎君 ●長與稱吉君 南部甕男君 ●長井長義君 ●遠山椿吉君

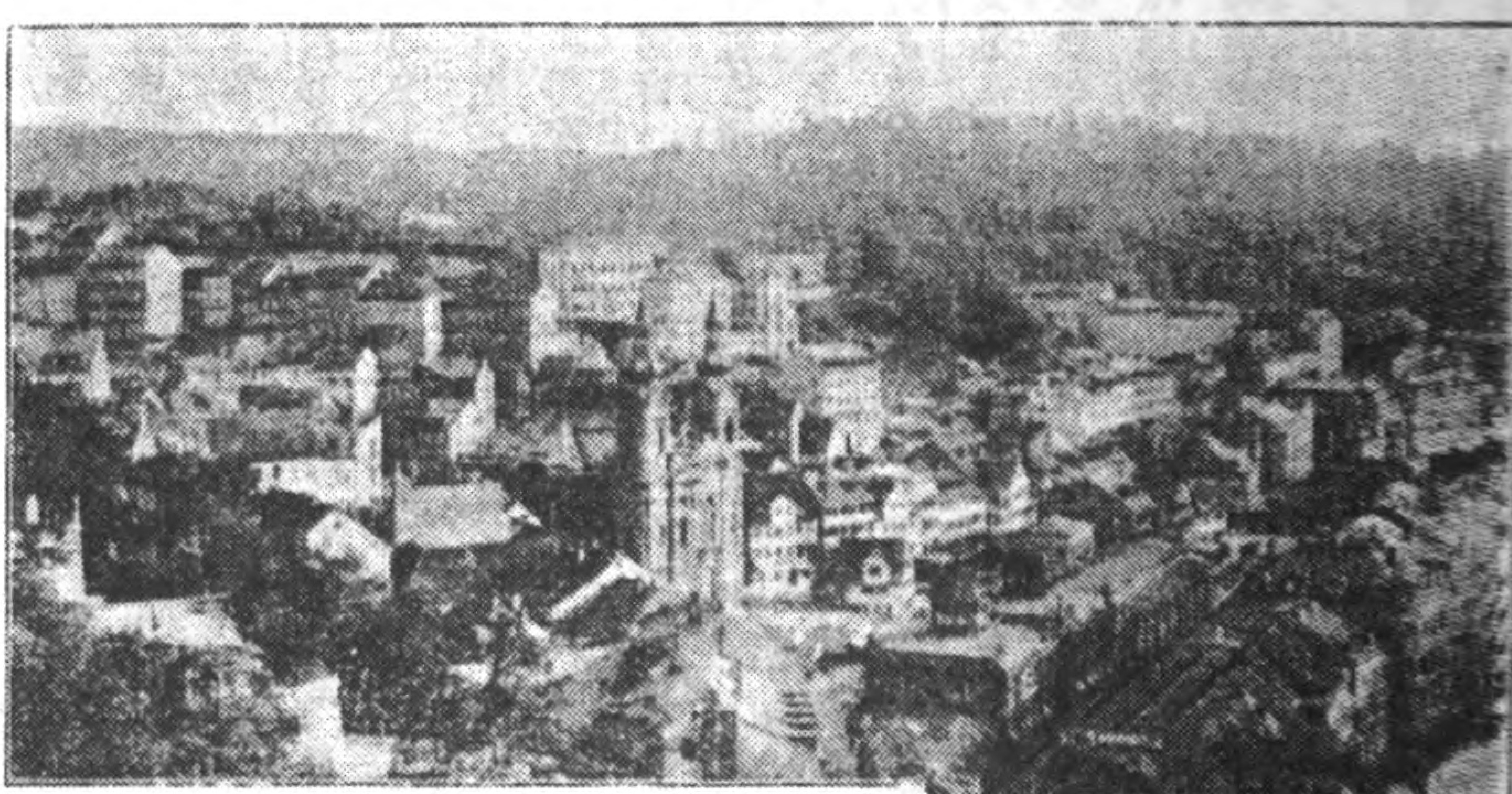
醫學博士 醫學士 醫學士 海軍中佐 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學士 岡山 [illegible]技手 ドクトル ドクトル 育兒學校長 廣島 醫學士 東京 [illegible] 元東京大學教授 醫學士 文部省視學官 醫學士 醫學士 子爵 前軍醫總監 ドクトル ドクトル 高崎病院長 產科婦人科 ドクトル 醫學博士 醫學士 醫學博士 ドクトル 高崎 醫學博士 醫學士 醫學士 ドクトル

●中濱東一郎君 ●黒山玄通君 ●栗本則野君 ●小笠原長生君 村松鐵三君 ●羽川宗雄君 ●栗本東明君 ●山田鐵三君 ●山田弘倫君 ●山根正次君 山川春二君 ●丸山良四郎君 ●松山陽太郎君 ●小此木信六郎君 ●小西信八君 小泉貫君 ●古川榮君 布施正顯君 ●後藤新平君 ●エ、ベルツ君 ●甲野棐君 ●寺山男吉君 ●寺田門作君 ●寺田織尾君 秋元興朝君 ●足立寛君 ●新井古芳君 ●富士川游君 土谷余次君 ●水原漸君 ●久保田誠愛君 ●佐々木政吉君 ●淺田次君 ●朝倉文三君 ●朝山海六君 ●秋田聰太郎君 佐藤三吉君 ●櫻井郁二郎君 ●佐藤恒久君 佐伯理一郎君

醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學博士 ドクトル 醫學博士 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 小兒科專門 理學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 伯爵 醫學士 醫學博士 ドクトル ドクトル 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學博士 ミス ミス ミセス ドクトル 醫學士 醫學士 ドクトル ドクトル ドクトル

●樽綱次郎君 ●時俊三郎君 ●櫻井鍈次郎君 ●桐渕鏡次君 ●北村精道君 ●北島多一君 ●北川乙二郎君 ●木下正中君 ●北島小太郎君 ●北里柴三郎君 ●三浦守治君 ●三浦謹之助君 ●宮本仲君 ●鈴作作吉君 ●三島通良君 ●三宅秀君 ●三輪信太郎君 土方久元君 ●島村俊一君 ●弘田長君 ●日高昂君 ●須田[illegible]君 ●逗川德君 ●木村德衛君 ●森林太郎君 ●征川三男君 ●波多野[illegible]君 ●吳秀三君 ●リッデル ●ヒユース ●コーツ ●菊池網一君 ●楢本左武郎君 ●鳥居春洋君 ●土田卯三郎君 ●佐藤逸雄君 ●内山信光君





上圖は獨逸伯林に建設せる眼科の大家なるフオン、グレーフエの紀念碑にして右の小さき人物は眼病患者の煩悶せる有様にして左は患者全快の喜びを顯はしたる美術的模範として普く稱揚せらるゝものなり●又下圖は獨逸有名のカールスバアト溫泉場の全景なり。

名家演壇

誤解せられたる哺育法

警察醫長醫學士栗本庸勝君　演說

貴婦人淑女諸君、私は暫くて御目に懸りましたが、本會の益々隆盛であると云ふことは陰ながら承つて居りまするが、畢竟役員諸君、其他會員諸君の熱誠なる御盡力に基くことゝ深く敬謝を述べます、又例月本會を開かれて有益なる講話があると云ふことも承つて居りました、此の頃濱尾の奥樣より御依賴がございましたが、公務多忙の爲に皆さんに御爲になる有益と認めるやうな事を申上げる材料を蒐集する時間がございませぬので、有觸れましたる問題、即ち哺育法と云ふ、此哺育法と云ふことに付ては瀬川君、或は加藤君等が屢々新聞にも掲げ又演說をもせられて居りまするから、無論皆さんも御承知のことゝ思ひまするので、又哺育法のことかと云ふやうな御考もあるかとも存じまするが、私のは成べく兩君が申されたる以外に於て、大體論として皆樣に御承知置きを願ひたく且、衛生の上から見ましても、必要なる點に付き極く摘んで御話しやうと思ひます」

抑も婦人の懐胎をすると云ふことは、無論生理的であつて、其生理的に伴ふのは彼の乳腺の關係で、此乳腺と云ふものが段々大きくなつて來る、即ち乳房が發育して來る、皆さんも既に御承知の通り乳房、即ち乳首が大きくなつて來る、分娩しまするすると直ちに乳汁の分泌が始つて來る、それ故に言辭を換へて申しまするすると、授乳と云ふことは婦人の生理的天職と言はなければならぬ、即ち分娩すれば乳汁が分泌をする、乳汁が分泌すると云ふのは其母たる者が小供に乳汁を授けなければならぬ、といふ自然の結果と言はなければならぬ、所が無論其天職を完ふする

所の婦人もあるが、中には天職が完ふすることが自分自から望んでも出來ない、所の授乳不能の人もある、實に授乳不能の婦人程不幸な人はない、又授乳が出來るにも拘はらず、殊更に授乳しない人がある、言葉を換へて申しますれば、好んで天職を空しうする人がある、是は文明と何時でも反比例を呈し、文明になればなるほど授乳者が少なくなり、未開であればあるほど授乳者が多い即、母の乳で哺育すると云ふことが未開の國に多く、文明國に少ないといふことは實に個人の衛生の上から言ふても、國家の衛生と云ふ上から論じても餘程注意をしなければならぬ、實に慨嘆すべき問題と私共は思つて居る。

然らば我日本は露西亞とも戰爭をしても勝ち、世界一等國に列を伍すやうになつたのでありまするから、無論文明の仲間入をするものと言はなければなりませぬが、矢張他の文明國に於けるが如く授乳者が段々減つて來はしないかどうであるか、之れに付ては統計の調査、即ち數字を以て調べてどの位あるかと云ふことは、統計の不十分なる日本でありまするから十分には分らぬけれども、併ながら歐米各國の前例に依ても、又生存競爭の今日女子職業の發達して來るに伴ふても、漸次此授乳者と云ふ者が少なくなつて來るらしい、是は見聞の事實が證明して居る、私共の知つて居る、人でも職業の爲、或は其他の誤解の爲に授乳者が段々少なくなつて來る傾向があるやうです、今是れ等の材料を集めやうと思ましたけれども十分ではございませぬがチョイと見當りましたものは、昨年京都の小兒科の敎室で統計的調査を盡された報告がございますから之を皆さんに御話しすると多少の標準が御分りにならうと思ふ。

先づ第一に授乳を廢した原因としては、母乳の缺乏に依る者が百三十三名、之を百分比例、即ち%に直すと、六六、五%となる、尙ほ詳しく申せば、牛乳を以て養育したる者が五十七名、乳母の乳に依て養つた者が二十九名、煉乳、即ちコンデンスミルクを以て養つたのが十二名、煉粉が四名、牛乳と煉乳を以

て養つた者が七名、母の乳とコンデンスミルクと兩方を兼ね用ゐた者が三名、米の煎汁、即ち粥重湯、が一名、母の乳と煉粉て養つた者が一名、牛乳と煉粉と併せ用ゐた者が二名、母の乳と牛乳と兩方を用ゐた者が八名、煉乳と粥で育てた者が三名、乳母と牛乳と煉乳と三つで育てた者が一名、其他不明であつた者が五名である、是れに由つてどう云ふことが分つたかと云ふのに、牛乳を以て育てる者が一番多いと云ふことが分つた、母の乳が無い場合には善き乳母が一番てすけれども乳母よりは牛乳が容易に取れると云ふ所から多いのてありませう。

第二に、疾病の爲に廢乳した者が三十八名、之を百分比例にすれば一九、三%、其內譯て、僂麻質斯の爲に廢した者が四名、產褥熱、是はお產をした後を不潔にすると其場所から黴菌が這入つて、さうして身體に熱を起す多くは死にます、詰り產後早く產褥から出て便所などに行くと、得て此病氣に能く罹るのです、此產褥熱の爲に廢した者が二名、それから腦膜炎の爲に廢乳した者が一名、赤痢の爲に廢した者が一名、脚氣の爲に廢した者が十名、貧血又は羸弱の爲に廢した者が五名、熱性病の爲に廢した者が四名、乳腺炎が二名、其他の爲め、是は別に病氣が揭げてない、是が九名、是に由つて觀ますると疾病の爲に乳を廢したと云ふことは、是は據ころない、病氣があれば其乳をば小兒に與へると云ふことは惡い次に第三番に御話することは最も衛生の上から御注意下さらなければならぬことてす。

第三としては、數多の事情の爲に廢乳せし者、二十七名、其事情を見るに或場合には寧ろ滑稽、或は極く悲慘なる原因が現はれて來る、是れに由つて社會の事情も凡そ推測することが出來る、此數が即一三、三%、尚ほ其の內譯を御話すると、

(い)、には母の離緣に依て廢乳した者が二名、

(ろ)、には母の病氣の時を慮つて、即ち母が病氣になつてはならないと云ふので、夫婦で相談をして可愛い小兒に乳をば吞ませないやうにして居る者が

ある、是れなども隨分酷い原因と言はなければならない、さう云ふ考があるならば立派な醫者に診察をして貰つた上でなければならぬ、

（は）、には特殊の事情に依りてとある、どう云ふ事情ですか、それは不明であるが、要するに母親が其小供に乳を授けることが出來ないとは餘程の事情がなければならぬ筈であるが兎も角母の義務をつくして居ないと言はなければならぬ、それが二名。

（に）、には母の死亡したる爲め、是はどうも據ころない、母親が死んだから其小兒に乳を授けることが出來ないと云ふは、唯不幸と惘らめるより外に仕方がない、それが六名。

（ほ）、には實に悲慘なる者がある、貰子なるに依りて乳を與へないと云ふのです、是等は隨分殘酷なる狀態、是が二名。

（へ）、には最諸君が注意しなければならぬのは、母の通學に依りて、母が學校に行くから、其爲に小兒に乳を授けることが出來ない、是は極端に言へば母が通學をする位ならば、其人は母の資格が十分でない、小兒を捨てても母が通學をしなければならぬと云ふは、是亦餘程の事情と言はなければならぬ、さう云ふやうな事は私共屢々聞くことで、是等は職業の關係であらふとも、餘義なき事情とは認められぬ、一體母と云ふ立場から言へば是ほど殘酷なことはあるまいと思ふ、私共は何時でも衛生講話に言ひまするが、早婚の弊、早く結婚をすると云ふことは實にいかぬ民法では滿十六歲以上と申しますけれども、少なくも二十歲を越えない中に婚嫁することはいけない、私は斯う云ふことを聞いて居る、佛蘭西で今より餘程以前に、徵兵令を改正した、女房を持つて居る者は徵兵を猶豫すると云ふ規則を拵へた、さうすると全國の壯丁は多くは皆婚嫁して仕舞つた、其結果どうであるかと云ふに、殘らず柔弱なる不完全なる小兒が生れて來た、それであるから是は徵兵令が惡いと云ふので、更に改正した、今度は女房を持つて居つても矢張徵兵に出なければならぬと云ふこ

とにしたらば、漸く前の早婚と云ふことが止つたと云ふ話てある、其通りてす、私は東北の者てありますが東北地方ては少しく地位のある者、財産のある者は年少にして早くも結婚をする、それてあるからマダ自分が十分に發育して居らない内に既に母になつて居る、其小兒はどうかと云ふに、身體薄弱の親から生れたのてありますから、從て小兒も皆薄弱てある、それてあるから其小供が四十歳位になつて是より社會に立つて大いに雄飛しやうと云ふ時分に何の仕事も出來ない、矢張先祖から貰つたる所の田地とか財産を守る位が落ちになつて仕舞ふ、故に教育上から言ひましても亦衛生上から言ひましても、早婚と云ふことは餘程注意をしなければならぬと私共は考へて居りますが、前に申した如く母の通學に依りて天職とも言ふべき所の授乳を廢すると云ふことは、數に於ては唯單純に京都の例を擧げたのてすが、是は餘程衛生に從事するお方、又教育に從事するお方は御注意下さらんければならぬことてあります、即ち母の通學に依りて授乳を廢したと云ふことは實に容易ならぬことゝ私は考へて居る、

（と、）には雙兒なるに依りて授乳を廢したと云のてす、之れも一面から言ふと殘酷てす、尤も二名に對するそれだけの授乳量が少なかつたかも知れませぬが、二名てあつたから廢したと云ふことは、恐らくは自分の身體のみを厭ふて即、自分の利益の爲に授乳すると云ふ情愛を絶たれたのてあらうと思ふ、それが二名、

（ち、）には分娩後直ちに乳の少なかりし爲め、小兒の生れたる後に乳の出方が少なかつたから廢したと云ふ者がある、是は實に衛生を知らない人てす、生んだ直後には乳の分泌の量と云ふものは少ないのは當然てある、それを心配して授乳を廢した人がある、それが二名。

（り、）には母が老年にして乳の少なかしに依る、母が歳を老つて居つて乳の出方が少なかつたから、それて廢した、是は據ころないことのやうに思はれ

る。

（ぬ）、には是が能く世間て誤解せられて居所の哺育法てすけれども、母乳のみにては不足てあらうと思つて、煉乳を併用した者が二名ある、是れなども誤解されて居る所の一つの哺育法てす、果して自分の乳ばかりて十分であるか十分でないかと云ふことは醫者の判斷に依て初めて分るのに、自分で以てさう考へて煉乳を併用したと云ふことは、是は一の誤解てあると云はなければならぬ、是が二名。

第十一、には是れ亦誤解てす、煉乳を以て母乳より優れりと信じたるに依りて、是は即ちコンデンスミルクの方が自分の乳よりは營養が十分であると云ふ誤解から、折角自分の乳が出るにも拘はらずこれを廢したと云ふ者が一名あつた。

（る）、には早産兒なりしに依て、乳の分泌も少ない、少いのみならず、早く生れた小兒であるから牛乳の方が良からう、どう云ふ譯てあつたかさう云ふ誤解をして授乳を廢したる者が三名あつた。

（ほ）、には斯う云ふ誤解をした母の乳を與へたならば胎毒が小兒に傳染する虞があると思ふて、折角出る乳を小兒に與へなかつた、牛乳か若くは煉乳を與へて居つた、是が非常な誤解である、果して胎毒が傳染ると云ふことを知つて廢したのであるかどうか少しも分らない、斯う云ふのも一つの誤解である、

第十四、には母の乳が多量なるにも拘はらず、無闇に牛乳を飲ませた、それは小兒に充分乳を飲ませやうと云ふので單簡に牛乳に換へた、實に斯う云ふのは無謀の甚しい者である、これが一名。

（へ）、には是が餘程諸君の御注意ものである、それは母の容姿を損するを恐れたるに依りて、乳を廢した者がある、是れてす、西洋人が自分の乳て小兒を育てないと云ふのは、自分の容貌が惡くなるとか、皺が早く現れて來るとか、即ち顔貌が醜くなるとか心配して乳を與へない、斯う云ふのが西洋人に最も多いのてす、實に小兒の不幸なることは此上ないのゝ、其母親としては實に無情極りないと云はねばな

らぬ、どうか日本へは此惡風俗を蔓延しないやうにしたいと思ますが事實はどうも徐々傳染しつゝあるやうに私共は思ひます、どうか衞生會員の有力なる皆さんが斯う云ふ事のないやうに、嚴重に社會に警戒を與へることを切に希望して置きます。

（と）、には乳房が小さきに依り發した者がある、乳房が小さくとも分泌量が適當にあれば決して廢乳をしなくても宜しいのであります、少量と思つて乳を飮せないと云ふのは、是亦一の誤解と言はなければあらぬ、

先づ此の如く御話して見ると、實に社會には如上のものに當箝つた誤解者が多いやうに私共は信じて居るのです、一面には母乳の生理的極めて有益なものであると云ふことを知らないのにも歸するでせう、けれども多くは此に出づる者が多い、子供を養育するには何うしても衞生の上から母乳より他に良い乳は無いのです、乃ち是は生理的に出來て居るので、迚も牛乳や其他の物が匹敵することは出來ないのです、此事は諸君に就中御注意を願はんければならぬ。

所で醫師の方面にも時々誤解があるやうです、と云ふのは乳兒脚氣――子供が脚氣に罹る、さうすると直に親が脚氣であらうと云ふ所から早々母乳を廢して仕舞ふのです、所が親が脚氣に罹ると云ふのはさう多くあるものではない、多くは妊娠性の神經炎或は婦人に多い所の「ヒステリー」で脚氣に能く似た所の徴候があるのです、それを以て醫師が直に脚氣と稱して母乳を止めることが此頃流行つて居ります、即ち親と關係があると云ふので母乳を廢することを私共は時々見て居る、是は醫師の誤解に據ることでありまするけれども、又素人であつて醫師から脚氣と聞いて心配して直に母乳を廢する人が尠くない、どうか斯る場合には熟練なる醫師の診察を受けて決行されむことを希望して置きます、然らば如何なる場合に離乳して宜いかと云ふ事を御話致します。

第一には母乳の分泌寡少なる時、斯う云ふ時には何うしても母乳のみては足りませぬから無論他より營養分を吸收する手段を執らなければならぬ、さう云ふ場合には餘議ないから他の手段に因つて子供を保育すると云ふのは、是はまア第一の原因である、此場合は無論醫師の意見を聞かねばなりませぬ。

第二には原因は分らないが子供の發育か著しく不良なる時には乳を換へて見る、さうすると肥大つて來ることがあるから、發育不良を認めたら醫師と能く相談をして母乳を廢することが肝腎てある、

第三には母の稟性著しく薄弱てあるとか、或は高度の貧血を呈するとか、其他慢性の疾病に罹つて居る時には母乳を廢さなければならぬ、例之母が黴毒を患へて居つたならば其乳は成るべく飮ませないやうにするが宜い、併ながら或場合には飮ませても宜い事もある、即其乳が梅毒に免疫したる性質を有て居る事がある……斯う云ふ事は醫師てなければ分りませぬから深く立入つて申しませぬ、概して言へば黴毒を病んて居る人の乳は飮まさぬ方が宜い、それから肺結核、の乳も飮まさぬ方が宜い、斯う云ふのが慢性の疾病てす、其他脚氣てす、先程乳兒脚氣のことに就き御話致しましたが、若も眞症の脚氣であつた時にはそれは無論飮ませない方が宜い、續いては熱性病てす、是は諸君が能く御承知のことて、熱の有る時に子供に乳を飮ませては惡い、

第四には神經質の婦人の乳は矢張子供をして神經質ならしめる――感應しまするからして、若し神經質の者が乳を子供に飮ませまするど其子供が後來神經病に罹ると云ふことになつて來る、それ故に母親の精神病者或は甚だしき神經質の方の乳は成るべく飮ませない方が宜いのてす。

第五には乳腺の疾病、無論乳腺が病氣に罹れば乳の出方も惡くなりますし其性質も惡くなつて來ますから廢乳しなければならぬ、次に乳房の發育著しく不良なるときも又同じ、

第六には斯う云ふ事がある、それは子供に乳を飮ま

せて居ると母親の身體が衰弱して來ることがある、分娩をして二三ヶ月と云ふものは毎回其母親が肺腺答兒に罹る傾向を有つて居る人を私は四五人知つて居る、さう云ふやうな母親が乳を飲ませて居ると身體が弱るのみならず病氣を重患にせしめる虞があるから斯う云ふのは母親の身の爲に何うしても授乳させないやうにしなければならぬ。

第七には再び姙娠したる徴候を認めたる時は授乳を禁じなければならぬ、是は當人の爲に宜いし又小供の爲にも利益なのです。

斯の如く御話をして見ると、第一より第七までの範圍を除くの他の場合は、どんな事があつても大抵の事は我慢して母親自身の乳に因つて子供を保育しなければならぬ、と云ふのは生理の上から言ふても又衞生の上から言ふても必要缺く可らざる所の事だらうと私共は信じて居る、萬一何うしても授乳を廢さなければならぬと云ふ場合が出來ましたならば、それに代へるものは何であるかと云ふと乳母です併し此乳母の撰擇は中々困難です、醫師が責任を有つて乳母の撰擇を十分に爲し得るかと云ふことは餘程困難な事であります、第一に乳母の系統を調べなければならぬ、乳母が癩病黴毒の系統を有つて居つたならば託した子供は總て失はなければならぬ就中桂庵を出入する所の乳母なるものは殆ど花柳病の媒介者とも言ふべき者でありますから、乳母の撰擇と云ふことに就ては餘程困難であります、若も乳母を得ることが出來なかつた場合には獸乳所謂獸類の乳を用ゐる、即其順序を申せば第一に母乳、第二に乳母、て是が天然營養法であります第三に至つて獸乳である、若も此獸乳をも得ることが出來なかつた場合は第四として煉乳を用ゐる、第五番目には種々の乳製品　人工品　お湯のやうな物であります、以上第三より以下は人工營養品であります所が此頃世間では此順序を顚倒して保育上牛乳が一番良い物と誤解されて居るやうです、兎に角母乳に勝る物は他に無いのであります、切に諸君の御注意を促して置ます、

次に天然と人工との兩營養法の優劣に就ては單純に御話したのでは或は御分りにならぬかもしれませぬから、一年以下の小兒の死亡比例に據つて左に說明しやうと思ひます

一年以下の小兒の死亡數は、天然營養の盛なる國に於ては僅に九、五%、天然營養と云ふのは母乳を以て育てるのであります、即死亡數が百人中に九人と五分です、それは何國であるかと云ふと諾威である、諾威の死亡數は最も少ないのです、之に反して人工營養分獸乳などで哺育して居る國、第一索遜などては二六、二%を示して居る即、百人中に二十六人と二分と云ふものは死亡する、次に獨逸のバイエルン、ウユルテンブルヒに於ては八〇%を示し又伯林に於ては一と六との比例を示して居ります然らば日本は何うであるかと云ふのに今日の所では幸に一五%位なもので、我國はまだ天然營養が盛であるから都合が宜いが、私共の考では日に月に一五、%なるものが一六、%一七、%となり、漸次プロセントの數を增して來るであらふと大に懸念致して居ります、それであるから諸君即ち婦人方の内に爲一哺育上の誤解がありまするど、一年以下の小兒の死亡數が八〇、%にも達するやうな事があるかも知れない、尙言葉を換へて申しますれば諸君の御心得一つで、死亡數が增減する自ら手を下して死に至らしめるのではないが死亡數が多くなればとりも直さず春秋の筆法にて皆さんが殺した樣な譯になる、即ち殺人罪とでも申しましようか、何うか此等の事に就ては餘程深く御考下さらんければならぬ事と信じます、先哲は四百年前に於て「母乳は白き血液なり」と喝破して居られます、實に金言である、皆さんは是非とも此金言を服膺せられ、之を衞生の上に利用せらるゝ樣切に御すゝめ致します、また牛乳の殺菌法などの事も御話したいと思つて居りましたが餘り長くなりますから後日に讓ることに致します。

要するに私が今日申上げましたのは健康體の母乳は小兒の營養に缺くべからざるものである、獸乳其他

の人工製品は已を得ざる場合には用ゐても宜いが、兎に角健康體の母乳に勝るものは無いと云ふ事を、この私立衛生會員諸君から世間に吹聽して戴かねばならぬ、又此事に就ては大に懸念すべき實例を有つて居るし、御婦人の天職として子供の健康に就ては特に注意して下さらねばならぬと信じます。

既に御承知のことゝは思ひましたけれども、豫て有力なる會員諸君に是非此事だけは御話申上げて置きたいと思て居りましたから、有觸れた事ながら皆様の御清聽を仰いだ次第でございます、今日は一向取纒めた事も申上げませぬて甚だ失禮致しました

（完）



肺結核の話

傳染病にはいくらもありまして假令ば「コレラ」「ペスト」「赤痢」腸窒扶斯癩病等何れも恐ろしきものには相違ありませんが併し肺結核ほどイヤな病氣はありますまい此病氣は年が年中絶へ間なく蔓延して殊に青年有爲の人々を斃すのでありますから國家の爲めどの位不利益なことか分りません此病氣の研究も漸くマダ二三十年前から始まつたので皆様も御存知の獨逸の古弗博士が肺病患者の肺の中から其黴菌を發見したので初め此黴菌を牛の血清の内に培養しましたところがコレラ菌や腸窒扶斯菌の様に短い時間では發育しません三四週間も經て漸く發育したので之を見ましても結核病は急性のものでなく慢性ので徐々と經過する病氣であるといふ事が分ります斯く緩慢な病氣であるが又中々に抵抗力が強よい即ち容易に死滅しないのである今結核患者の痰中にあるバチルスが體外に排泄されてから空氣中に於て何時間で死滅するかといふにコレには澤山の學者も試驗されましたが固より痰の大小厚薄明暗によりても非常な違ひはありますが先づ大概三ヶ月間位は乾燥しても死滅しないのである日光の及ばぬ濕潤に暗い

處などにありましたなら一ヶ年位は生息するので之れが風塵に交ざりて空氣中に浮遊する夫れを人が吸ひ込みますと肺の内に入りて肺結核病を起すので實に危險千萬な事で知らず〳〵の内に感染するのである斯く申すと迚も往來は歩行することは出來ぬことゝなります此割合に往きますと大概の人は肺病に罹らぬものはないと云はねばならぬ併し玆に一ツ大に氣を强うするに足るのは平素身體强壯のものであるならば如何に結核菌を吸ひ込まうと決しは感染することはありませんが若し平素身體虛弱にして加ふるに感冒其他により身體に異常ある時は身體其物が感染し易き培養基となり居るのであるから斯る時には大に注意して餘り風塵の起るときなどは外出を止めてよく身體を保護せねばならぬ又此結核菌即結核患者の痰の如きものが水の中に入りては其生存如何と云ふに割合早く腐敗しますが併し一ヶ月や一月半は死滅しない又場合によりては長日月生息して居た例もある勿論是等の水を呑んだら不健康のものにありては腸結核を起します又熱度に對する抵抗力は如何といふに痰の内にあるものは攝氏六十度なれば一時間八十度なれば五分間九十度では二分間にして死滅する若し牛乳の内にあるものとすれば攝氏七十度にて十分間に確實に死滅するサラば寒冷には如何と云ふに是又非常に抵抗力が强く雪の内にて攝氏十度に於て六週間以上も生活――したといふ例があります若し是を日光に曝らしたならば如何といふに是れは比較的抵抗力が弱くありまして大概一週間位で死滅します總て結核菌のみならず多くの黴菌は皆日光の爲めには生活力を奪はれます故に西洋の諺に光線の這入らぬ家は醫者が入るとは實際の箴言で日光は自然の消毒藥で眞に敬仰すべきものでありますから總て家屋にても南向で光線のよく這入るようにして薄暗らい室のないようにせねばなりません

ソコで肺病はドの位我れ〳〵同胞を斃すかと云ふと毎年凡そ八萬乃至十萬の人間が此病の爲めに生命を奪らるゝとは實に怖るべきではありませんか固と傳

染病でありますから人口の稠密の處にもよりますが東京では人口一萬に付き三十五人乃至四十人大坂京都は同率で三十人位となる外國では如何かといふと倫敦、巴里、伯林などは以前は矢張り東京位の死亡率であッたが今日では倫敦は二萬人に付十七人伯林は二十人位に減じました是れは公衆衛生の進歩した爲めである前にも申す如く此病氣は尤も多く青年を斃すので去る明治二十九年より同三十年に至る我國の統計によりますと十歲から三十歲に至る間の者が最も多いといふ事が分りました之を全死亡數に比例して見ますと百人中肺病で死ぬものが二十四人半で其死亡者の內で二十歲から三十歲までの死者が二十五人七分を占めて居る之を他の傳染病に比較して見ましても赤痢にしろ窒扶斯にせよ肺病程の死者を出すことはない赤痢の烈しきときは嘗て八萬の患者を出したこともありましたが死者は百人の中で二十人位であった近頃尤も多い赤痢でさへも一年の死者約五十人と云ふに肺病に至りましては十萬と云ふ聲を聞いては慨かざるを得ないではありませんか

サて此俗に申す肺病は治らぬものか治療法はないかといふに是れには段々學者の研究を積て今では治らぬことはない畢竟手當さへよければ治癒するので一時はコッホ博士のツベルクリン療法が非常に勢力があッたが其後大に聲價を落したといふのは蓋し適當な病人を撰まなかつたのと適當な方法に因て使用しなかッた爲めに非常なる惡評を招いたので其後の研究によれば衛生的食餌療法と併用したものは非常に好成績であると云ふ事が分る樣になッた併し病氣の第三期に迄進みたる患者にありては迚も何れの療法を用ゆるも今日では到底癒すことは出來ませんが兎に角食餌療法とツベルクリン療法との併用はたしかに効驗のある第一の療法であるが衛生食餌療法は中々費用のかゝる事で貧乏人では餘程困難なことで一と口に言へば金持ちであれば結核病も癒るが貧乏人の結核病は癒らぬと云ふので今日の處では是以上の療法のないのは誠に殘念なことであるサラば其療

法とはドンなものかと云へば先づ極めて衛生的に生活するので第一には新鮮なる空氣を吸ひ第二には充分營養のある食品を攝取するので是れが今日の一大良法としてある第一の新鮮の空氣とは海岸なり山なり患者の體質によりて撰ぶのてブレーメルと云ふ人が此療法を發見したのて初めの内は非常な山師として世間の批難を受けましたが其功能の顯著なるによつて遂に一大發明として歡迎せらるゝこととなりました其人の療養所には新鮮の空氣を供給せしめんが爲め横臥室が作ッてありましてソコは南向て三方は全く明け放して北の方だけ圍いをして北風を防ぐのみて屋根とても廂の樣に出て居るので恰も屋外と同樣て只風と天日を防ぐに過ぎない患者は茲に時間を定めて横臥させるので午前と午後に二三時間位づゝ行はせるので寒中でも雪の降る時でも身體は充分に温く覆ひ只首ばかり出して呼吸せしむるので夫れをやると同時に又少しつゝ適度の運動をさせるのてあるそして營養療法をやらせるので此病氣は病の進むに從ッて段に瘦せ衰へて行くのでありますから第一身體を肥らす工夫をせねばならぬこれをするには消化し易き滋養のあるものを撰びます假令へは朝飯前に牛乳を飮ましめ朝飯を喫したる後十時頃に又牛乳を與へ或は果物菓子などを食し一時に午後次に又牛乳と云ふ樣に菓子七時頃に晩食寢る前に又〻牛乳と云ふ樣に同じものでも厭ますから時〻調理の法もかへて與へる樣になし又患者の風引かぬ樣に床中て乾いた手拭て身體を摩擦し又は濕ッた手拭て全身を摩擦することをやッて皮膚を強固にするのが必要てある斯くして長日月の内に追〻快方に赴かせるので昔しは結核は全然治癒しない病氣として皆信じて居りましたが今日では一定度を越さなければ治るのてあります併し成るべく初期の中に早く其結核病なることを知りて其用意をしないと最早取り返しの付かぬ時代となりてからはドーも致し方のないのであるが兎角初期の内は醫者も親族も假令ひ結核性てあることを知つても氣管支カタル位にして置き患者に只安

心をさせて置く習慣のあるのはよくないので夫れも治癒しない病人なら實を話しても何んの役にも立ちませんが治癒すべき病人であるならよく其結核なることを打ち明けて金のある人なら充分手の盡される丈の營養療法空氣療法をやるがよろしいソウすると患者も其氣になりて費用も惜まぬ樣になりて傍らのものも介抱し易くなります今日世界の學者は以上の如き自然的治療法により居るのは止むを得ぬ次第ですが近年ペーリングと云ふ人は小兒の時期に於て結核をして免疫ならしむることを研究したとの事で大分有力な說であるが追々研究に研究を重ねて居ること故近き將來に於ては必ず一種の免疫法が發見されるであらうと思はれるソウなると貧富の差別なく其恩澤を被むると云ふことになるのである併し前にも申す如く初期のものにありては身體の營養療法等の注意によつてよく病魔に打ち勝ち全癒することは敢て珍らしからぬことで西洋でも又我帝國大學でも屢々死者解剖の際結核病の全癒したる形跡のあるもの頗る多きを認めますから決して不治の病にあらざることが分ります此等は結核の患部の周圍を結締組織で取り圍んで封じ籠めたようなものであるから其取り込められた患部の中には黴菌の死んだのもあり又往々生活力を有して居るのもあるから不幸にて風でも引き其結締組織に裂罅でもいると其中から這ひ出して又々勢力を逞しうすることがある若し肺病に罹ッたとなると普通の人は恰も死刑の宣告を受けた樣に心得て自から元氣沮喪して所謂氣で氣をやみ即精神的に病氣を惡くして仕舞います肺病と精神とは大變な關係がありまして一たび病人が安心しますと今迄食事の不味かッたものが甘味くなり具合が大に違ッて參ります夫れてあるから或人は鎌倉の圓覺寺に籠ッて野菜ばかり食べて居て肺病が癒ッたなどと云ふ人もあッたが勿論滋養食を取るにこした事はないのであるが是は所謂宗教の爲めに安心立命を得て心が病界を離れて精神作用が病氣に及ぼさなかつた爲めて是等は蓋し心機一轉の一法であッて咳嗽喀痰

等には對症療法として薬も中々効能はあるが症狀の許す限りは轉地して世の中は悉く抛棄して全く精神の入らぬ肩のこらぬ樂みをするがよい假令へば植物の採集とか昆蟲類の採集とか寫眞とか神社佛閣へ參詣するなどのことは至極よろしい一體此病氣は長日月を要する病氣であるから忍耐が尤も必要で必ず其病氣と根くらべで所謂生存競爭をする覺悟がなくては叶はぬ獨逸には勞働者の爲めに疾病保險と云ふのがありますから毎日一錢か二錢出してイザ病氣となると會社の醫者が來て診察して呉れまして一定の期間相應の金を與へて休養させ轉地なり食事療法なりをやらせて治療する組織が出來て居りますが日本にはまだ此設けがありませんから殊に勞働者などには氣の毒の事で此等は止むを得ませぬから成るべく規則正しく働いて閑隙を得たときに氣を養ふとか散歩するとかするのが大切のことです肺病になつて全快したと云ふ人は實に數へきれぬ程多いがさて肺病になつたらドンな氣持ちかと云へば其人の性質疾病の模樣によりて固より違ひますが今茲に實歴談を少し揭げて見ましやう或人は生來虛弱で小供の自分から慢性胃カタルを病んで居たソレから成年になッて一心不亂に勉強をした結果遂に身體の榮養は惡くなり初め少量の咯血咯痰が出る樣になり身體は次第に瘦せ衰へて來ますから醫師に診察して貰ひました處がいよ／＼肺病に罹ッたと云ふ事を宣告されました茲に於て大に奮發して生來虛弱で胃病などがあッた爲めに遂に結核に取り付かれたに相違ないこれからは大に胃を丈夫にして身體さへ強壯になりさへすれば決して癒らぬことはあるまいと信んじてそれからは注意に注意を加へ藥劑は「クレオソート」「グヤコール」「キニユトール」曰く何といふ樣に隨分服藥しても見たが悉く駄目であるから大に滋養食を取ることゝした魚鳥獸肉は申すに及ばず一日四合位牛乳を飲み鷄卵は三四個は缺かさず用ゐた處が少しもよくないよくない筈で胃腸の惡いところへ餘りつめこむだ爲め身體の養ひにならずして胃を害することが多

かッた因て運動と云ふことに氣が付きサンドウや適宜の運動を取ッたが中々捗々しくない海水浴なども海邊に居る内丈は食慾もすゝむが家に歸れば同じこと或時陸中須川溫泉の蒸氣浴の事を聞いた該溫泉場は海拔七八百メートルの須川岳の中腹にある深山幽谷にして空氣は新鮮にして蒸氣浴と云ふのは直徑四五寸もある穴が地上の彼方此方にあつて頻りに蒸氣を噴出する夫れを適度に適節して其上に筵を敷き仰臥して穴より噴出する蒸氣で背面より兩肩胛骨間部を温めるのである是れこそ自然療法に叶ふものならんと思ひ立ち幸ひ夏季の事なれば早速登山して試みた處が果せるかな食慾は次第に增進し體量も增すようになつて効驗非常に顯著にして約二年間の蒸氣浴によりて全く生命を取り留めたと云ふ例がある其後胃擴張肺結核の友人にも勸めて入湯させたところが何れも其効驗の著るしきには驚喜したといふ此事たる全く空氣療法と蒸氣療法を兼ねたる今日社會に稱揚され居る方法に毫も異ならぬことてありますから

蓋し全快するに至りたるものなるべく一には忍耐は容易のことては辛棒の出來のぬなりソコの辛棒を通り越せばはや生命は此方のもので大丈夫と云ふべきものである是れは實際の一例てすが又或人は洋行して歐羅巴人の非常に勉強て忍耐の强いのに感じて過度の勉强をしたすると偶々流行性感冒に罹ッた咳は劇しく出る身體は段々に痩せ體量は二三貫目も減少して血色が非常に惡くなッた夫れてもマダ勉强はして居ッた處が尙ほ〳〵咳と痰が出始て一日の中に五杯も六杯も痰吐を換へねばならぬ樣になッて胸も痛み略血を始めたから食鹽を飲んで水て冷したがドーも止まらず二三週間と云ふものは毎日コップに三杯づゝ血を吐き失神すると云ふ樣になり肺結核も念の入ッたものとなッて人々も皆見放した位て自分も遺言などもした位ひてあッた夫れに此病氣の性質として非常に精神の亢進して仕方ないものてある元來結核のものは肺の萎縮が伴ふから呼吸を大きくして氣腫を起す位が肺の養生になると云ふ學理から考へて

坐禪を始めた之をやることが半年許りにて追々養生にも出掛けられるようになり諸所の海岸に行ッた藥物などは却ッて胃を害することが多いから此等は除り効能が無い樣であッたから海岸で呼吸運動ばかりやつて居ッて夫れは鼻から大氣を呼吸して下腹に力の入る迄吸ひ込んではき出すのて初めは苦しいが慣れゝば工合の惡いことはない夫ればかりでは興味がないから義太夫の呼吸運動に適當するのと面白と思つた點からイロ〳〵聲を出すことゝした是れは加藤病院長の談片であるがそうすると段々身體もよくなッて行樣であるベルッ博士などは亂暴なことをすると批難した位であつたが其後大變に良なつてベルッ博士に遭つた時などは博士も驚かれた位であつたそうだ蓋此人の全快の原因は呼吸運動が其主なるものであつたと云ふことである又或人は肺病になつてからは今迄非常に好物な酒や煙草を絕對的にやめ冷水摩擦や深呼吸鐵啞鈴などの御蔭て生命をとり止めたといふ人もある又或人の治肺法として成効したのは灸點と網打と牛乳鷄卵等の外に第一に感冒に罹らぬ工夫即ち水浴を怠らず夏は必らず海水浴に行き一切の繁累を斷ち書見に耽けらず夜をふかさず房事を大に愼む等であつたとの事である又米國哲學博士なる北島亘氏が三十歲の頃肺を病まれた其時に橋本博士から授けれた療養訓と云ふのは左の如きてあつた氏は全く此敎訓のために生命を取り止め全快したと云つていられるそうてある

其敎訓と云ふのは

一先生一診して曰く是は惡るい乃公の言ふ通りやらぬと助からぬぞ乃公の言ふ通りの養生をして見ろ第一房事を愼しめ

一直に轉地しろ

一他人の言ふことに迷はされて色々の療治をやつてはならぬ

一肺病には藥と云ふものはないもんだ營養療法が第一だ

一牛乳を多量にやつて見ろ

一心配するな氣を安樂に保て居れ

一日光に當れ少し位熱があつても戸外で飯を喰ふやうにしろ

一坂路を少しでも登るな

一酒が飲めないか少し位やつて見ないか

北島氏は此教訓により七月一回二ヶ月一回鎌倉に轉地して其頃は體量十四貫目に減じ一町先きもあるけぬ位であつたのが今日ではスッカリ全快されて體量十八貫目もあると云ふことで尙同氏の實驗には橋本博士が第一に房事を愼めと言はれたのは實に至言であつて肺病者は總て色慾が過敏になつて來るものであるから之に打ち勝てぬようでは迚も治癒することはないと感じられた又神經の非常に過敏となりチヨットした事も心配になり物事を氣にするようになり腹立ちぽくなるソコで氏は獨身自炊の法を取り療養中の食物は胃が丈夫であつたから朝は鶏卵四個魚類パン半斤牛乳四合晝は魚類牛肉若くは鳥半斤パン半斤牛乳三合夜は日本料理で主に刺身の外に醫者のすゝめにより酒を五勺より一合までと牛乳三合とで夜は午後八時に寢に就き牛乳は食前にやると食慾を害するからいつも食後に湯茶を呑む代りとし鶏卵牛乳を餘り好まぬ爲め一案を考へて先づ鶏卵四個を丼の中に壞しよくかき交ぜて其中に四合の牛乳を混ぜてパン半斤を三片に切りて浸すと皆汁を吸ひ込む夫れをフライ鍋にバタを入れ熱くなつたときに之を入れて燒き狐色になつた所で引つ繰り返して燒き砂糖を掛けて食べれば非常に旨く容易に食べられるこれはさすが米國通の北島氏丈あつてよき考案である氏の海岸に於ける日課は大に參考すべきもので毎日朝の食事が終ると自分で皿を洗つて直ちに毛布を持つて杖を力に一丁以南の海岸にいつて砂の上に寢て仕舞ふ雨の降る日はドーかと云へば矢張り同じ時に出ていつて雨の當らぬ所の砂の上に寢てしまい十二時頃に目がさめて腹が減るから歸つて食事に就く濱邊に寢るとよく腹の空るものでそれで食後も同じ事をして夕飯は宿屋に行き食事に行き歸つて三合の牛乳

を飲んで寢るのが氏の日課であッたといふ又或人は最早死の宣告を受け遺言狀迄も認めたが麥角エキスの爲め其初め頗る快方に向ひたることもありしに一夜鯨飮爲め再び大吐血をなして死に瀕するに至りたるなればどうせ死ぬものなれば麥角エキスの極量以外を徐々に服用し併せてケレオソートを用ゆ尤も養生は出來得る丈なし談話等は嚴禁して筆談とし胸部には冷罨法を施し飮食は肉類ソップ牛乳一旦冷やしたるものを用ゐ咳嗽は鎭咳藥を用ゐ喫烟飮酒を嚴禁し室内は温暖に空氣の流通を善くし精神を疾病より遠ざけ靜養せしに追々快方に向いたれば轉地療養をなし專ら滋養食と運動等に心を委ね遂に全快に至りたるものもあります此外肺病の全癒しました例は過日の朝日新聞紙上に掲げてありましたが何れも大同小異で營養及空氣療法は尤も有効なるものと認められますから世の肺病患者たる者は大に氣を强うして先づ精神を安靜にして病苦を努めて疾病以外に遠けて決して落膽することなく天命を全うせられんことを望みますされども固より傳染病の事でありますから家人に傳播せざる樣消毒等は常に勵行するが尤も必要で歐米にては今や澤山の肺病療養院がありまして其設備等も完全で貧困者の救療なども實に整頓したものださうです日本でも早晩は是等の設備も出來ましやうが今日の處ではソウも行きませんから肺病患者ある家では病人も家人も充分の注意を拂はねばならぬのであります終りに右の消毒藥にもいろ〳〵ありますが肺病患者の痰の內でもいくらか乾たものであると五千倍の昇汞水二百倍の石炭酸で五分間位で死にますが吐きたての痰であると痰の同量の二十倍石炭酸を以て二時間消毒しましても又五百倍の昇汞水を以て二十四時間働かせましても死滅しない位のものでありますから充分の消毒法としては悉く燒却するに限るのであります先づ此位ひにして一段落を付け肺病の話を止めて置きまして他日又々精細の事を書かうと思ひます

* * * * * * *



大家談叢

●育兒談

此篇は醫學博士瀬川昌耆氏のにして本會抄録の許諾を得たる前號の續きなり

●白濁の小便

▲尿の白濁になる理由　此の白濁を帶びた小便をした跡の狀態を說明すれば丁度齒磨の粉を振蒔たやうに白くなつて居ものです、爾して襁褓や龜頭のあたりにも處々斯いふ狀態の跡を認る事があります、初生兒時代から旣に斯んな尿を洩すともあるので其理由を心得ぬ親達は如何に驚くてありませう又或醫師抔は之を乳糜尿（前回に乳糜症と記せるは誤植なり）と名を付けて居る程ですが前にもお咄し仕た通り左して心配には及ばぬのです一體小兒の小便が斯うなるのは多く冬季の寒い時にあるので溫度の高い夏季の頃などは見受ける事が殆んどないのです處で此白濁を生ずる理由は、尿中の沈澱が寒氣の爲めに冷へて石質に化するのです、其の石質に化したのが即ち白濁の小便になつて顯はれるので、全く身體に異狀のある爲めでもなければ、急に斯んな病氣を釀したと云ふ譯でもないのです、夫れ故夏の如き外部の溫度高き時は白濁の狀態は無いと云つても宜いのです、夏は尿中の沈澱を生じても石質に化さぬから夫れが目に付かぬので御座います

▲白濁尿の試驗　夫れが證據には此の白濁の小便を器物へ取つて、夫れを火の上に翳し溫熱を加へて御覽なさい、今迄白濁て居た小便は見て居る間に變じて、普通の尿にかへつて仕舞ひます、夫れは今もお咄し仕た通り寒さの爲め冷へて沈澱が石質に化したのですから、熱を加へれば其の石質の溶解するに不思議の無い事であります、であるから白濁の小便を洩したからとて此理由さへ心得て居れば、驚くにも

及ばぬし詰らぬ心配を仕なくとも濟むのであります親達が小兒の身體上を監視すると斯んな事で往々驚かされますがまだ〳〵此外には隨分疑を生ずる事が澤山出來て來ます

▲尿の濃い時など　又尿が非常に濃厚になつたり、色の着いた尿の放たりする事がありませう、之れは大人にも往々ある事だが之等は食物の關係や夫れから飽食した場合、又發汗した跡などには斯んな狀態がありますから念の爲め申上げて置きます

▲小兒の顏色　身體上の監視に付き第三に注意すべき小兒の兩見は之れでお分りになつたでせうから第四の注意として一般に顏色を監視しなければならぬお咄しに移ります、尤も顏色と云つても顏の色ばかりではない、一體に小兒の顏は大人と異つて瘦せぬものです、大人は少し下痢でもすれば直き目が凹んで顏の瘦せるものですが小兒は大人と狀態が異つて居ます、夫れ故顏が瘦せぬからとて安心は出來ません、顏が平生より瘦せて來るやうになつたら夫れこそ餘程重病に冒されて居ると思はなければなりません

▲便秘の場合　小兒の大便のことを引續いてお咄し致さう、親達が監視を怠たつて居ると下痢して居ても何か食べたいとか、遊びにでもかまけて居ると夫れを隱くして居るから、夫ういふ場合には一刻も早やく發見するやうに注意しなければならぬ、下痢すると同時に併便秘することも深く心付けないと三日も四日も其儘で居る小兒がある、小兒の時は苦痛を訴へるに至らざれば三日や四日便秘して居ても左程氣に留めず親にも夫れを默つて居る兒が多い、便秘しても下痢しても宜しくない故其小兒の性質にもよらうが日々とか隔日には必ず便通のあるやうでないと其兒の健康を害ひます

▲尿利　次ぎは小便の注意です小兒は場合によると尿利頻々のことがあつて、今放尿した計りだのに又便所へ往くと云ふやうなことがある、併し之れは一寸した習慣で斯なることがあるけれど左程心配いたさ

んても直るものてす、元來小兒は大人に比べては小便の量が多いものてす、故に量が多ければ從て度數も多く小用の近のは普通一般の理てあります併し尿利の餘り遠は宜くありません例へば朝放尿した計りてあるに夕方まて小用がないと云ふやうな事は餘程親達が注意して遣らなければならぬ

▲小便の白濁　夫れから小兒の小便に就て親達の非常に驚く病狀を呈すとがある、夫れは念の爲めお咄し致して置きませう、場合によると小便が白濁を帶びて眞白になつて放尿ことがあるのてす、能く小兒抔は戸外へなど放尿ものてすが、小用した跡を見ると眞白になつて居る、又湯に浴る時抔親が此狀態を發見するとがありますなにしろ斯な狀態を見たら心得なき親々は必ず驚きます、何して此んな小用が出るのだらう、元氣は此通り良いが身體に屹度異狀があつて夫故小用が變つて眞白になつたのだらう」と驚いて醫師に相談することがあります、併し之れは、決して驚くには及びません、或る醫者抔は之れを乳糜症など、名を付けて居りますが、ソウ仰山にしないても宜いのてす御安心の爲め其理由を次にお咄し致しませう

●身體上の監視

▲顏付の惡しき時　小兒の顏の痩せる事は頗る親々の注意すべきて之れは前にも述べた通りてあるが尙血色は大に氣を付けなければならぬ、平世の血色と異つて居たら何れか氣分の惡い處ても無いかと親の方から心付けぬと遊びにかまけて居る場合や、其外左程苦痛が無いと默つて居る事が屢々あるから「今日は大層顏色が惡い樣だが何うか仕はせぬか」と問ひ訊すことは小兒身體上の監視に缺くべからざる事てある

▲痩せる事　第五の注意は身體の痩せる事と肥り過ぎる事とてある、兎角小兒の癖として身體が痩せて來ても苦痛を自覺しない以上は決して夫れを訴へるものてなければ、又元來も消耗するものてない、痩せると云ふ事は必ず身體に障害のある結果て親達が

深く注意せぬと顔付も左程痩せても居らず元氣も目に立つ程衰へぬから痩せて行くのを發見する事が出來ず、從つて病根を早く治療する事が出來ない、爾うなると俗に云ふ手後れとならぬとも限らぬから此邊は手抜かりの無い樣にいたされたい

▲肥り過ぎる事　痩せる事は無論身體に故障があらうと誰も速に御會得にならうが痩せる事と反對に肥り過ぎるのも注意しなければならぬ肥るから宜いと投追つて置くと其肥り方が所謂本肥りでなく一種病的の肥り方であつたら發育上非常な障害となります、痩せて惡し、肥り過ぎて惡し小兒の保育は實に困難なものであります

▲脊髓の屈曲　第六は脊髓の屈曲で後方へ凸起したり、又横方へ彎曲したりする之れは屢々眼に觸れますし又私の病院（東京小兒科院）などへも斯ういふ患者が折々參ります、此の凸起とか彎曲とかゝ一種の病的でなく、全く親の抱き方や脊負ひ方の惡い爲めの結果ですから治療には大分困難なものですが況して之れが結核性の爲めに凸起や彎曲の狀態に陷つたのなら實に容易ならぬ病患で初期に早く手當てを施さぬと悔いて返らぬ事となります、椎骨の結核性は即ち骨の腐る病氣で之れを「カリエス」と云ひます此の病氣に冒されては輕症でも一年や二年では治癒らぬ事があるし尙完全なる治療が屆いたか否かは成長した後でなくば受合ひの出來ぬ程恐ろしい病氣です、斯る病的にあらずとも脊髓の凸起や彎曲は親々の不注意から起る事往々ある故、身體の監視を怠ると飛んだ處に失策のあるものです

▲寢衣を着換させる時　身體上の監視に引續きお咄し仕た通り第一飮食、第二睡眠、第三大小便、第四顔色、第五身體の痩肥、第六脊髓の曲折、先づ是丈は是非親達が注意して遣らぬと何時かの間に小兒の身體に變化を生し易いものです、併し單に注意と謂ても注意の仕方には種々あるもので何ういふ方面から注意したら宜からうかと夫をお咄しする事が尤も必要と信じます扨是迄の經驗によつて親達が一番綿

密な注意を拂はなければならぬ場合は朝夕寢衣を着換へさせる時で御座います、誰人も御存じの通り寢衣を着換へさせる時は悉く裸體にさせなければなりませんが、何うも此場合には身體上の監視を注意せぬ方が澤山あつて困るのです、と云ふものは寢に就くときは多く小兒が眠がつて居るとか又多くは母親が「小兒を寢せたら何々の仕事を仕やう」と云ふやうな考へをもつて取急いで小兒を寢せて仕舞ひます又起床の時なども早く起して仕舞つて朝の用務を取片付けたいと思ふ之れが一般の家庭に多く有勝ちの事故發育盛りの小兒の身體を監視する抔は全く那地除けに仕て仕舞ひます、斯ういう弊害が伴はれるのて遂に發育の缺點を見顯はすことが出來ないで仕舞う、故に私は寢衣を着換へさせる時は先づ第一に母親が自身之れを行ひ、尤も機敏に監視する事を切望いたします

▲入浴せざる事　次には寢衣を着換へさせる時計りでなく入浴させる時にもよく／＼注意しなければなりません、能く世間にある例ですが「入浴をさせる時に小兒の身體を見ました處大層痩せたので驚きました何處か惡いのではありますまいか」とか或は「脊骨が出つたのを發見いたしました」とか云つて驚いて醫師の許へ連れて來る事があります、之れ等は詰り入浴させた序に發見した初顯です、其他親子寢室を共にして睡眠の狀態を注意する等は是非共自身親々の手落ちなく實行されるやうに願ひます

▲母親が一番に心付く　家庭に於て尚一層の注意をするならば醫師に托して時々身體檢査を致さすとか必要であります併し幼兒の身體に就ては誰よりも母親が一番早く心付くものです、例へば小兒の泣き樣でも又元氣でも總て平生の擧動を知つて居れば直ぐに其不完全な點を知る事が出來ます、小兒をして完全なる發育を遂げしめんには身體上の監視を親々が嚴重に注意しなければなりませんが之れが即ち轉ばぬさきの杖ではありませんんか

●結核性の兒童

▲學校醫　親達が平生寢ても醒めても小兒の身體上の監視を怠つてならぬ事は前にお咄し仕た通りてあるが、尚小兒が小學校へ通學する樣になつても、此事は聊でも等閑にしてはなりませんし、既に學校へ遣れば學校醫と云ふのがあつて夫々兒童の衞生上には注意して下さるから安心だと氣を許して居ると飛んだ間違が出來ます、學校の囑托醫は屢々參校して生徒の衞生を監視する譯てはない、一年に二度とか三度とかホンの形式的に胸の周圍を計るとか或は背の高さ抔を量つて健康とか不健康とかを推斷するのてす、夫れも綿密に全身を檢査するなら兎も角なれど胸や脊の高さ位で、夫れも僅の時間に多數兒童の身體檢査をするのだから實に今日の學校醫が施す健康診斷に依賴して安んずる譯には往かない、故に念を入れて小兒の身體を監視するには前にも申した通り家庭へ醫師を招いて折々健康診斷を賴む事は充分必要てあります

▲生徒の結核　小學校生徒に就いて斯ういう危險なことがあります、之れは屢々實見する所てあるが非常に猛烈なる結核性に冒されて居ても親達は夫れと心付かずして其の兒を學校へ通はせます、又小兒も夫れ程の重體と心付かう樣もなく、幾分か息苦しいとか胸苦しい位には感じても先づ元氣よく通學して居ます、勿論斯ういふ場合には小兒の食欲も左して衰へもせず、又左程瘦せもしないやうな譯、爾うてあるから不注意な親達は之れを發見し得ないのてあります

▲床に就いたらお仕舞　斯くの如き恐るべき病原の潛める兒童を學校醫の健康診斷する時直ちに發見し得るかと云ふに胸の周圍や背の高さを量る位の事てナカ／＼之れを見出す事は出來ない、夫れ故今日の如き形式的にする學校醫の診斷は充分重きを措くに足らぬのてあると云ふ所以てあります、併し斯る重病なる結核性患者の生徒が元氣も消耗し、食欲も減じ病床に就くやうになつたら、モー恢復の見込みは殆んど無いと云つても宜いので、多くは床に就けば

間もなく作れる例が多いのです、以上の如き事實は往々見る處であるから親達は之れを未漸に豫防する方法を講ずる事が如何程必要なるかはお解になりませう

●感冒の用心

▲寒氣と小兒の部屋　近頃日增しに寒氣は嚴しくなる計りであるが、此際小兒に最も注意を與へねばならぬ事は感冒です、殊に初生兒時代に在つては一層嚴重に體溫の冷却する事を防ぐ方法を講じて遣らなければならぬ、寢床に平臥て置いても入れて置く湯たんぽを餘程氣を付けぬと此の寒さでは動もすれば冷めて仕舞う、湯たんぽに據つて暖を保つのに湯たんぽの溫度が冷めて仕舞つて居ては一大事ではありせんか、此寒氣に入つて、親達や又は保育者の油斷から折角健全に生れた生兒の體溫を冷却せしめた計りに救ふべからざる不幸に陷らした者を見聞致します、夫れから生後まだ百日も經過せぬ哺乳兒を寢せるのに部屋を選ばず、北向きの狹い薄暗い處でもお構ひなしに眠らせて置かれる、夫れては此部屋の外に適當な室はないかと云へば決して爾うでない、客間だと云つて奇麗に掃除の屆いて居る部屋杯は而かも南向きて、光線も能く透り、小兒を遊ばせたり、寢せたりするには最も適當と考へらるゝ部屋のあるに、其部屋は小兒を保育するに使用せず、客の爲め空しく明けて置くやうな次第です、之れは育兒上から觀察したら實に思考に缺けた扱方と信じます、此嚴寒に向ふ際斯んな心得違ひの爲め往々小兒に不利益を與へる事は、前にも述べては置いたが思ひ當りし事の多き故、尙申添えるのであります

▲厚着の爲感冒を引く　小兒が感冒を引くことの多いのに就いて斯ういふ實例があります、私の病院へ參る患者ですが未だ生後百五十日計です、此小兒は感冒ばかり引いて居て癒つたと思ふと又感冒の爲め機嫌が惡い、何うして斯う感冒計り引くのであらうかと云ふに此小兒は每時汗ばんで居る程着物を着せてある、下には襦袢、胴着、夫れから近頃では綿入

れの三枚も着せてある上に袖無し羽織を着せ未だ寒からうと云ふので綿入れ羽織を着せてある、夫れ計りではない綿の入たるフランネルの襁褓を下に敷き幾枚となき襁褓にて足も動けぬ樣に纏んでありますす斯んな次第で餘り着せ過ぎてある爲め此小兒の身體は常に汗ばんて居る、故に私は斯う着せ過ぎてはならぬ、モッと薄着にさせなければと申せど薄着にしたら又風邪を引かせるだらうと云て居ます、最も其の母親は薄着にさせる積りでも、家庭に姑さんがあつて「斯んなに着せてさへ風邪を引くものを脱がせて薄着にしたら何んなに重體させるか知れぬ」と氣遣つて脱がせぬさうてすが此寒氣に向つては必ず斯う云ふ着物の厚着をさせて、夫れが爲め却つて感冒の誘因になる事が多からうと信じます、左ればとて程度にも構はず感冒を引かせる樣な薄着をさせてはならぬが、着せ過ぎて小兒の身體が汗ばんて居るやうてあつたら必ず厚着をさせ過ぎると思召し程よく脫させるやうに願ひたいの

▲朝夕の外出を禁ず　此嚴しい寒さに向つては小兒を外出させる事が又感冒を引く誘因となります、小兒と云つても先づ生後半ケ年位迄の間を申すので此時代の小兒は外出しても寒氣に抵抗する丈の體力が未だ備はりません、夫れてあるに親達は朝でも夕方ても更にお構ひなく戶外へ連れて出る、小兒は妙なもので、此位の時代でも癖の早く付き易い事は驚く計り、善い癖でも惡い癖でも、直ぐに夫れに染つて仕舞ひます、朝だの夕方だの戶内に居ては小兒の機嫌が惡く、泣いて計り居て困る、戶外へ出れば背負さつてヨイ／＼跳つて居るものを、誰しも小兒にむづかられるのは厭だから勢ひ嫌機を直すやうにと朝や夕の寒い中でも戶外へ連出ます、此習慣が抑も宜くないので、此樣際には玩具を見せて小兒の氣をまぎらすとか、目先を取換へて樂ませて遣るやうにすれば自然と惡い機嫌も直るもので、戶外へ連出すよりも遙に優つて居ます、併し此處に御注意して置くのは斯ういふ事實てす、朝夕は戶外へ連て往かねば

機嫌が惡し、ト云つて生後半ヶ年位の間は出ては惡いと云ふが何うしたものだらう」と終に思案に究し一時逃の慰安として直ぐに乳房を含せる、之は又至極惡い事で授乳の時間を規則正しくせぬと、遂に小兒は飲み過ぎて胃腸を害するに至ります、之れは世間に有勝ちの弊害で感冒を引かせまいと思つて、却つて消化を害しては、保育上何んの効もない事になつて仕舞ふ、夫れ故むづかつて困るから是非共小兒の氣を他に紛らしてやる方法を講じなければなりません、要するに小兒は一ッの事計りは飽き易いから目先きを換へて遣るやうにするが必要であります

▲外出して良き時刻　斯う申したら此時代の小兒を戸外へ連れ出す事に就いては何う云ふ時を選んだら宜からうとの御質問が起らうと思ひますが、近頃のやうな氣候では極く天氣の良き日で、爾うして暖かい風の無い時、十二時から一時頃迄の間、外出させる事は至極宜いのです、勿論小兒の身體に更に故障の無き時でなければなりません

▲綿の厚い羽織　背負い袢天の事も前に其弊害を述べて置いたが寒中になつたら一層注意しなければなりません、總て斯ういふ綿の厚い背負い袢天に包んで背負ふ時は平生着せてある着物を一枚位脱がせ平生より薄着にさせて背負ひ、後に又背から卸したなら今度は脱がせた丈の着物を着せると云ふ事になさい、爾うすれば袢天から卸しても俄に冷へて感冒を引く憂ひに遠ざかります、併し着物を脱がせると云ふ事は一々面倒故、綿の厚い少し大ぶりの羽織を作つて置き小兒の目の醒めて居る時は丁度外套のやうに此綿入羽織を着せて置き寢せる時や餘儀なく背負ふ時は此羽織を脱がせるやうにさせると便利です寒中などは一ッお試しになつたら如何ですか



●婦人の神經衞生（一）

醫學士　田村化三郎君述

●神經の衞生とはどんなこと

▲小冊子「神經の衛生」　私は本年六月から八月にかけて讀賣新聞紙上に「神經の衛生」と題する講話を連載した所が多數讀者の愛讀を辱ふし今では小冊子に印刷して同新聞社から發行せられて在りますから此本を御覽になつた御方や新聞で御讀み下さつた御方には善く御分りてあらふと思ふが未だ御覽にならぬ御方には神經の衛生とはどんなことか大體のことさへわからず一寸耳新しく御感じの方もあらふかと思ひます殊に婦人の神經衛生に付てはあの本に書き足らぬ點もあり又特別に精しく述べる必要もあり岡田博士からの御依賴て婦人衛生會の爲めに改めて御話することになりました但し成るべくあの本と重複せぬやう述べる積てあるから同時に小冊子「神經の衛生」をも御一讀を願ひたいのてあります

▲痩せたる衛生家(奥様)　世間の奥樣といはるゝ方は誰れてもそふと云ふ譯てはないが時には非常に衛生を重んずる奥樣の内に衛生の精神を誤解して案じ過ごしをなさる御方が無いてもない、それはどんな風かと云ふに不潔は最も衛生に害があるとて每日家の掃除にばかり忙しく又食事の不規則はいかぬとてどんな事があらうとも時間通りにせねば濟まず晝食も午鐘に少しても遲れては氣にかゝり食物の分量も二杯とか三杯とか少し控へ目にキチンと定め成るべく柔らかい消化物ばかり食後には齒の攝生とて三度三度口中の掃除之を一度休んても氣にかゝり冬は感冒をひかぬやふフランネルづくめの頸巻綿て包み肺病の疑ある御客てもあれば遠く隔てゝの御對談歸つた後ては座布團の日光消毒や茶碗の消毒の大騷ぎ濕氣は害があるとて、獨りて二階住ひ、それ夜具を日に乾さぬか、シーツを洗濯しろ、枕覆は汚れはせぬか、便所の臭氣がするそれ石灰を撒け、なぜ早く窓を明けぬか、そんな掃除のしやふてはいかぬ早く風呂を立てぬか、やれ爪を取れ、髮をかれ櫛を別々にしろ洗面器を混用するな子供が少しくしやみをするそれ體溫器それ吸入器それ何、やれ何といふやうに自分と子供の衛生に日を暮らし外の家政には

何にも手は附かねそこで奥様の御健康はと云へば極々瘦せて靑白ひ御顏で年中藥の絕へたことがない御氣の毒なは其御主人で友人に遇ふ度びに「妻の弱いのは閉口だ」が口癖になつて居る

▲肥へたる不衛生家(下女)　所が其奥様の使つて居らるゝ下女はどふであるかと云へば極めて呑氣なもので衛生の工の字も知らぬ無頓着、楊子も使はず、顏も洗はず便所から出て來た手で摘み喰ひしたり、朝飯が十時になつたり夕飯が夜中になつたり、半分腐つたものを喰へば生水をガブ〳〵飲む、寒中足袋もはかず、一枚の着物でセッセと働いたり、用が無ければ居眠りをする御飯は腹一杯喰べる御芋も喰べる〇〇〇もするそれで感冒一つひかずむつくり肥つて達者なものである

▲眞正の衛生　さらば何故に衛生を守る奥様が瘦せて衛生を守らぬ下女が肥へるかと云ふに是は奥様の運動不足もあらふ又は食物の分量が控へ目過ぎて慢性に飢へて居る人もあらう併しそれは極稀れであつて主もなる原因は普通衛生には適つても神經の衛生に適つて居らぬからで下女は知らず識らず神經の衛生に適つて居るのである然らば奥様も下女の様に唯呑氣にして居れば肥ゆるかといふに一家の主婦たる奥様に下女のやうになれと云ふても出來るものではない假令無理に下女のようにしたとて唯呑氣といふだけではいかぬ要するに神經の衛生と呑氣とは似ては居るが實は大違ひである普通の衛生にも適ひ同時に神經の衛生にも適ふのが眞の衛生と云ふもので之を完全に實行するときは奥様でも下女でもどんな職業の御方でも必らず瘦せた人は肥り肥り過ぎた人は瘦せて來て健全無病の人となるのである人には肉體と精神とある通り衛生にも肉體のと神經のと二つあるが世間の人が肉體の衛生ばかり知り過ぎて神經の衛生を知らぬのは甚だ遺憾千萬である是が私の最も熱心の起る所以であります　（つゞく）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊



●不老不死の術

此篇は松村介石氏の説く處なりとて電報新聞紙上に掲載せるもの頗る正鵠を得たるものと信じ茲に轉載す

人は肉體と心靈とより成る、是故に先づ肉體上より云はんに、予はこゝに冷水浴と深呼吸と直立濶歩の習慣とを奨勵すべし、予の見聞するところには、毎朝冷水浴を行ふものには、疾病に侵さるゝと極めて罕なり、又嘗て羸弱なりしものも、冷水浴を始めしより、非常なる健康體に復せしもの多きを知る、かくて深呼吸は是れ近來我國に於て大に奨勵せらるるもの、即ち毎朝庭前に出て、先づ體軀を直立せしめて、天地四方を靜觀し去り、それより徐ろに首項と手足を運動せしむること少時にして、長く鼻口より空氣を吸ひ、又た長く腹底より空氣を吐き、終には長息と短息と相次がしめ、音聲をも亦た之れに和せしめて、只管胸肺の爽淸ならんことを圖るもの即ち是れなり。然り而して直立濶歩は、歐米人の夙に思を致すところのもの、而かも我國に於ては、未だ普く行はれず、青年に於て之を爲すときには、おつう氣取るなどゝ朋友に揶揄るゝ恐れあり、商人に於て之を爲すときには、町人に不似合なる歩行振かなと、人に睨まるゝ恐れあり、婦人に於て之を爲すときには、啻にお轉婆若くは生意氣と罵らるゝのみならず、日本服にて之を爲すときには實以て見られたるものに非ず、是故に未だ普く行はるゝに至らず、然れども之れ衛生上にとりて大切なるものなり、彼れ歐米人を見よ、青年は勿論の事、其商人たると婦人たるを問はず、大道狹しと濶歩するところ、寧ろ壯なるものありと謂はざるべからず、而して是れ何れも衛生上の注意より來れる結果なり、と知らば寧ろ學ぶべきものなしとせんや。冀くば吾人をして我が此の陋慣を打破することに努めしめよ。

約に予等の謂はんと欲するところのものは、心靈上の事なり、即ち右の衞生法を實行すると同時に、之れに心靈上の心得を加ふると是れなり、或る仙術の書に曰く、人もし長命ならんと欲せば、須らく踵にて息するの工夫を爲すべしと、彼れ凡俗の爲すところを見よ、啻に踵にて息せざるのみならず、啻に腹にて息せざるのみならず、啻に喉にて息せざるのみならず、殆んど皆口頭にて息するものなり、長命術を去ると遠しと謂ふべし、然則如何にせば踵息の人たるを得べきか、曰く先づ其心膽の据處より工夫せざるべからず、彼の乍ち怒り、乍ち喜び、忽ち目を張り、忽ち耳を聳て、忽ち神經を役するものゝ如きは、踵息の人たる能はず、乃ち踵息の人たらんと欲せば、所謂る心氣を臍輪、氣海、丹田の間に藏めざるべからず、而して心氣を臍輪氣海丹田の間に藏めんと欲せば、信仰か若くは達觀的悟道に依らざるべからず、基督敎にて之を云はゞ何事も神に委せて思ひ煩はざるに在り、空の鳥を觀よ、野の百合花を觀よ、稼せず、穡せざるなり、勞せず紡がざるなり、然るに天の父は皆之を養ひ給ふなりとの戒訓を味ふに在り、而して之を味ひ之を悟するときには、心自ら廣く、體自ら胖かなるを覺ゆるに至らん、かくて心已に廣く、體已に胖かなるに至らば、其息自ら遠く、呼吸は自ら足心より往來するに至らん、朱子をして云はしむれば、萬物皆靜觀自得の境なり、陽明をして言はしむれば、險夷原不滯胸中、何異浮雲過太空、の心地なり、而して禪僧をして言はしむれば、見性成佛寂然不動の體なり、乃ち人もしこゝに至るときには、心炎意火は自ら滅落し、胸膈自然に爽快を覺え、一切の心配なるものは、之を尋ぬるも得べからざるに至らん、而して自ら踵息の人たるを得ん。

之を要するに不老不死の術とは他なし體については前述にかゝる衞生を勵行し、心については、一切の心配苦勞を除くに在り、人を老いしむるものは心配なり、人を殺すものは心配なり、而も此心配や、こ

の信仰とかの悟道とに因りて消滅せりとせば、不老不死を願はざらんと欲するも豈得んや。



高崎支會に於ける講話

●木伊乃化胎兒の實驗

講師　乾　宗太郎君

本會御來會の皆樣に御熟覽に供し聊か御話を申上げたいと思ひますのは姙娠九ケ月を經過致しましたる胎兒の木伊乃に化したるもので御座います

そこで如何なるものが胎兒の木伊乃かと申せば畢竟姙娠兒其ものが月を重ぬるにも拘らず月と併行に發育を致しませんで却て發育は沮止せられ且つ萎縮して硬固となり毫も腐敗などを起さぬものであります而して斯の如き變化を起したる胎兒は幾多の姙娠中其數は甚少いものでありまして書籍などにも精細に説ひてない位てあります又私共も今回の實驗は始めてて御座ゐまして如何なる原因によつて斯の如き變體に陷りしかは誠に明了致しません明了せぬからと云ふて自分一人で秘藏致して置きましても餘り効能があると申譯ても御座ゐませぬから一應御一同方の御目にかけ御參考までに止まる次第であります却說是より母體の既往に於ける分娩經過と木伊乃胎兒の狀態を大略述べませう

○○某女　年齡參拾六歲　農業

某女は生來誠に壯健でありまして嘗て御藥などは服用致したことはないそうでありますそこで

月經の初期　十七歲の二月上旬

二十歲の十一月結婚

出產の回數及年月

初回	二十一歲十一月女健
次回	二十四歲十一月女健
三回	二十六歲十一月男健
四回	二十九歲七月　女健
五回	三十三歲一月　男健
六回	三十六歲七月　双胎木伊乃

某女は明治參拾八年七月下旬より八月上旬に跨りて四日間月經を見爾來姙娠のため月經は閉止致したそ

うてありますそこで姙娠後四ヶ月位までは是までの通り追々御腹が大きくなりましたが其後になりましては別段膨大もせず却て幾分か小さくなりました上硬度も增し下腹の溫度が減じた位で他に是と申程の異狀もなく本年七月五日まで農業に從事して居つたとの事であります

然るに五日の正午過ぎになりますと何だか下腹や腰の廻りが少しづゝ張るやうな痛むやうな工合になりまして段々其痛みが增して來て非常に苦しくなりました故本人は若しや御產の始ではないかと思ふて兎に角便所へ參りまして稍暫らく苦しむうち娩出しそうになりましたから或ぼろ切れを用意して胎兒の娩出するのを待つて居りますうち午後一時頃に甲圖の一見が出ましたそこで本人は最早子供は悉皆出てしまつたものと思ふて家へ歸り產部屋に引籠つて居りましたすると間もなく又以前の如く陣痛が起つて參りまして一層その度が強くなつて非常の苦痛煩悶で自分では迚も生命は助るまいと覺悟した位であつたそうてす此苦しみは殆んと七時間續いて午後八時に乙圖の一見を娩出致しました然るに產婦は丁度正午より午後八時までの間の苦痛と出血とて隨分身體が衰弱致しました最も午後五時頃私の處へ往診して吳れとの急使が來ましたが相憎病氣のために謝絶致しました故止を得ず其晚は素人が澤山に集つて適宜に相當の處置を施して生命の危險を防止致したそうてあります本人は一體是までの五回の出產時に於きましては幸運にも分娩は極めて易すくいつも分娩後三日目には床を離れて家事を勤めたそうてありますが何事もなく良候の經過をとつたそうですそれ故今回の御產は餘程難澁てあつた故死ぬものと思ふたのも無理てはないのてあります

兎に角二人の子供は漸く生れましたが後產即ち胎盤は未だ出ないが別段不思議には思はなかつたそうてあります何故かと申せば何れも二人の子供が餘り小さくて如何にも萎縮して居たものてすから無論後產はくづれて出血と共に悉皆出てしもうたものと思た

のであります然るに翌朝になりましても出血が是迄の御産とは違つて多量なる故家人も本人も心配して再び私に是非來て吳れとの事でありました因て御氣毒故午前七時に患家へ着し産房に入り患者を一見するに劇しき貧血と衰弱とを來し重體の樣に見受けましたから早速診察致しますと脈は一分間に百貳拾至にして然も甚だ微弱心動も又同樣誠に掛念に堪へませんから即時枕を低くめ頭部に溫罨法を施し心臟部に興奮劑の注射を貳筒致しまして暫く樣子を見て稍一般病狀も佳良にむきましたからそして下腹の狀態を撿診致しました所が姙娠五ケ月大の硬き塊物を手に觸れました壓するに僅かに純痛があるのみて別段苦痛も感じませんてした然し出血は可なりに致して居りました因て子宮內を檢診するに大なる胎盤樣の塊物がありましたから種々苦心の末漸く八時に娩出せしむることが出來ましたそうすると出血は急忽に減量し子宮は收縮よろしく誠に都合がよろしくなりまして一家笑談を試むるの期に接しました因て私は二日分の配劑を渡し双胎兒と盤胎とを合議の上頂戴致して土産と共に喜んで自宅へ歸りました其後聞く處によれば産婦は追々日立もよく今日にては元の通りになつて働いて居るさうであります嗚御婦人方もなか〳〵御つらいものでありますな夫たるものは何てもよく妻君を保護し大切になして一家の和樂を終生全ふしたいものであります

双胎の木伊乃胎兒(九ケ月)

	(甲)扁平頭蓋の方	(乙)圓形頭蓋の方
身長	一八仙	一六仙
重量	三四瓦	三〇瓦
臍帶	二八五仙	二三仙

生理的姙娠五ケ月の胎兒

身長　一八乃至二七仙
重量　一三九乃至三五九瓦
臍帶　二二乃至三〇仙

生理的姙娠四ケ月の胎兒

身長　一〇乃至一七仙
重量　三〇乃至一二〇瓦
臍帶　一六乃至一八仙

生理的姙娠九ケ月の胎兒

身長　四四乃至四八仙

重量　二五〇〇瓦
生理的妊娠五ヶ月の胎盤
胎盤　十一〇八仙の直徑三厚さ一、五仙
重量　七〇瓦
木伊乃胎兒の（九ヶ月）胎盤
胎盤　一三と一〇仙の直徑と厚さ一、五
重量　一二八瓦

右の表に因て考へますれば木伊乃胎兒の身長と重量は殆んど生理的妊娠の四ヶ月のものと同一の樣であります而し臍帶の長さは丁度五ヶ月のものと同樣であります何れに致せ妊娠の初期より異狀の發育經過をとつたものと思はれます

乾燥萎縮乃ち木伊乃化したるものは總ての組織の水分が乏しくなりまして皮膚は帶黃褐色を呈しまして革の如くなります而して羊水の量は通常減少致します斯の如き變化は如何にして來るやと申せば臍帶の纏絡（からみつく事）に由て死亡致しましたる胎兒又双胎の一兒が他兒の壓迫に由て死亡致しましたもの等に來るのであります終りの場合に於きましては死亡したる胎兒は壓平せられまして所謂紙狀胎兒を形成致します然るに私の實驗致しましたものは双胎共木伊乃に化したのでありまして誠に不思議と思はれます兎に角木伊乃と申ものは徐ろに死亡致しましたる胎兒に來るものとして可なりで御座ります本日は此一言を以て終りと致します終に臨んで御清聽くだされたるは一同の御方に深く感謝の意を表します

附記　本演説に對し態々木伊乃胎兒の寫眞を寄せられたれども餘り恐ろしきものゆへ茲に省く



治庖會本部教場主事　安田こま子

▲信田卷だいこん

先づ揚豆腐の三方の端を切落し、之を兩手の指先にて開き展しおき、別に大なる蘿蔔を撰び、揚豆腐

の幅に等しき長さに切りて皮を剝き又之を揚豆腐の長さより少しく短く長さ薄く剝ぎおとして三枚程を展したる揚豆腐の上へ重ね、揚豆腐と倶に端よりかたく巻き、其巻き終りを下方にして板の上におき、水を浸したる竹の皮を細くさきたるものにて兩端と中央との三ケ所をしばり之を目笊の中へ並らべ入れ其上より熱湯を注ぎかけて油拔を爲し、鍋に入れ之に鰹節の煮出汁を澤山加へ尙ほ砂糖と醬油（醬油は控へ目に加へる）とを加へ落蓋を爲して煮、殆んど煮熟たるとき、前に控へしだけの醬油を注し、一寸と煮て鍋をおろし、其信田卷の兩端を少しく切落し、竹の皮を取捨て四片程に庖丁をなして皿に盛るべし

▲茶碗
かぶらむし
そぼろゑび
薄くず
生姜

先づ蕪を水洗して皮を剝き、卸金にて擦し、極くかるく搾りて茶碗に盛り分けおき、次に車ゑびの頭を除き水にて能く洗ひ、皮を剝き、背腸を拔き捨て、板の上におき、庖刀の平にて敲き、之を鰹節の煮出汁と醬油とを合せたる汁にて淡味に下煮を爲して茶碗に盛り分けおき、別に鰹節の煮出汁へ餘り鹹からざる加減に醬油を加へたる汁をつくり、此汁を前の茶碗に八分目程注ぎ込み之を蒸籠の中へ入れて蒸し而して蒸し終らば薄くずあんをかけ、擦し生姜を添へ、茶碗に蓋を爲して膳に上すべし但し薄くずあんの製法は本年十月發行本雜誌季節料理欄内にあり

▲黃枯茶飯

此飯の炊方は、普通の飯の如く水加減して之に清酒と醬油とを加へて炊ぐべし、但し白米壹升につき清酒七勺、醬油九勺を用ひ又水は普通の飯を炊ぐに用ゆる分量より清酒と醬油との分量丈け減じて用ゆべし

▲加藥飯

此飯の拵へ方は、きがら茶飯を炊ぎ而して釜の中にて糸蒟蒻、細引揚豆腐、せん椎茸、さゝがき牛蒡

の加藥を飯に斑なく混じて釜より直ちに茶碗に盛り其上へ揉み海苔を撒り蓋を爲して侑むべし但し加藥の味付方は次の如くなすべし

絲蒟蒻は、ゆてゝ之を鰹節の煮出汁と醬油と極く少量の砂糖とを以て淡味に煮上ぐべし

細引揚豆腐は、揚豆腐を竪に二つにわたし　木口より細く切りて前項絲蒟蒻と同樣に味付方をなすべし

纖椎茸は、木乾椎茸を暫らく水に放ちおきて之を沸騰湯の中へ投じ柔らかにゆてゝ纖に打ち、之を鰹節の煮出汁と醬油と少量の砂糖とを以て淡味加減に煮あくべし

笹がき牛蒡は、牛蒡の上皮を削り捨て水洗して笹の葉の如く削り之を暫らく水に放ちおきて灰汁をぬきし後ち、沸騰湯の中へ投じ柔らかにゆてゝ絲こんにやくに同樣の味付方をなすべし

かき鯛

▲深皿　山かけ

甘酢

わさび

先づ鯛の鱗をひき、腸と鰓と除き、三枚におろし、薄肉を除き、小骨を拔き　而して庖刀を以て一と口になる程の大さに肉をそぎとり之を平皿又は木盆の如き器に鹽を撒り、其上へ美濃紙を敷き、手水を打ち、此紙の上へそぎ肉を並らべ又其上へ美濃紙を被せ、又此紙の上へ鹽を撒りて手水を打ち而してそぎ肉に鹽のきゝたるとき之を取出して皿に盛り、其肉の上へ擦し薯をかけ、之に甘酢を加へおろし山葵を添へて侑むべし

擦し薯の製法は、自然薯或は佛掌薯を水洗して皮をむき擦金にて擦し之を摺鉢に入れ、一寸と摺り之に鰹節の煮出汁を少々極小量の醬油とを加へ更にザッと摺りしものなり

甘酢は、味淋を半量に煮詰め之に此量丈けの酢と極少量の醬油とを加へしものなり若し味淋の代りに砂糖を用ひんとするときは砂糖蜜を作り味淋よりは

少量を用ゆべし

▲ソーセージ

牛豚肉各百目づゝを挽肉器に三回挽き（挽肉器なきときは庖刀にて細かく敲くべし）之を擂鉢に入れ、之にセージとタイムとを少しく加へて能く擂り混ぜ倘ほ之にセリー酒又はブドウ酒少々と牛乳少々と鹽と胡椒とを加へて擂り混ぜ、之を豚の腸（豚の腸は鹽漬になしあるものゆへ使用せんとするときは水洗を爲すべし）の中へ詰め込み、長さ三寸毎に三つ程ねじおきて之を天盤の中へ入れ、天火に燒くべし（若し天火器械なきときはフライ鍋に入れ、牛脂にて炒るべし）又附合は、マシユポテトースを用ゆ此製法は、馬鈴薯の皮を剝ぎ、淡鹽ゆてになして裏漉にかけ之に牛酪少々と牛乳少々と鹽とを加へ適宜の形狀にまるめしものなり

▲エグスツーフル

鷄卵四個をわり、蛋黃と蛋白とを別ち、蛋白を充分に泡立て之に蛋黃を加へて混合し別にフライ鍋に牛脂の小塊を投じ、牛脂の溶るを待ちて右鷄卵を流し込み、文火にて鍋の上下より燒き（日本料理の燒付鷄卵を燒くが如くなす）上面が燒けたるとき、中央に林檎又は他のジヤムをおき、柏葉形に折りて直ちに皿に移し、三盆砂糖を撒り、倘ほセリー酒又はブランデー酒を少しく注ぎ、やけ火箸にて木の葉形に燒き目を付くべし

新刊寄送書紹介

人生の實務　吉川潤二郎述　前編一一九頁　定價二十五錢

發行所　東京本郷駒込四片町十番地　内外出版協會

本書は人生行路の譯述者なる吉川氏が簡明の筆を以てイーゼイハーデイ氏原著を理解し易く譯述したるものにして全篇を二十章に分ち何れも人生實務の訓戒となり慰安ともなるべき金言例題を擧げて說かれたるものたしかに靑年及實務者の指南車となるべき良著なり

雜報



▲豆腐の滋養　豆腐はいつの頃より始まりしものか古しへより我國の料理に使用せらるゝものにて全國至る處にあらざるなき尤も簡便にして滋養に富めることは皆人のよく知る處なるが去月の報知新聞紙上に大澤博士及高田學士の說を揭げし以來豆腐の賣れ行き殊の外よく豆腐屋は何れも嬉々たりとは左もあるべきことなり大澤博士は人も知る生理學の大家て且特に日本の食物を研究せられたる博士の說は聞くもの〻信念深きは無理なきことなり氏は每日必らず湯豆腐にして一丁づゝ用ゐらるゝが共効能は實に著るしいものてと激賞され高田學士も又口を極めて其効能を說かれ肉や鷄卵牛乳にも劣らぬ滋養物てある元來日本人は是等の野菜食が多いから肉食をする西洋人の目から見たならば日本人はドーして生きて居るかと疑ふに相違あるまい否博士なども西洋から歸へられた當時全く此疑ひが起つて日本の食物に就て研究せられた若しも動物から得る處の蛋白質を取らぬと人間の營養が不充分てあるとすれば坊主や百姓は迚も長命を保つことは出來ぬ筈てあるのに事實は是れと反對てあるソコて日本の食品中で何にか多量の蛋白質を含んて居るものがなければならぬと先づ豆類を調べられた處が雁食豆の如きは分析の結果百分中水を去つて殘りの固形體が八八、〇三て其内には蛋白質が四〇、六〇五脂肪質が一八、四九、含水炭素が四、〇九灰分が四、五七と云ふ樣に非常に蛋白質に富んて居る固より形を替へ調理の仕方によつては消化も違ふことてあるが中々消化のよきもので殊に生豆腐の如きは尤も良好の成績あるもので博士の試驗によれば豆腐の消化性蛋白質九六、一を以て他の滋養物に比較するに牛肉は九七、玉子は九七、牛乳九三、白パン七八黑パン六八馬鈴薯六〇大豆六

〇、大根六〇、であるから豆腐は僅に牛乳以上の滋養性分のあることが明白なりといふ故に僧侶の精進料理の如きも古來より多く豆より製したる豆腐、納豆、味噌、麩、湯皮等を用ゐることは自然に叶ひたるものにしてよく僧侶の長齢を保つも又之が爲めなりといふ

▲マッサージ自療法　催眠術新報第四十六號には西洋獨按摩術即マッサージ自療法に就き醫科大學志賀光明氏の説を述べたり今其要點のみを拔萃せんにマッサージとは西洋按摩の意義にして我國に行はるゝ按摩に比して其方法を異にするものにて日本の按摩は多くの場合疲勞者に快感を與ふるので必しも治療を目的とするにあらず然るにマッサージは筋肉按摩にして日本按摩は神經按摩なり故に神經を刺戟して血行作用を盛ならしむるのであるから間接的であるがマッサージは血管そのものを壓しつゝ筋肉より（毛細管）靜脈となり心臟に歸へる速度を早からしむるのであるから直接に血行を整へるのであつて求心按摩と稱するもので其方法は文字の如く中心に向ひてもみ上ぐるので靜脈血を次第に心臟に送るのである此按摩法は勿論醫家の命により行ふべきことにて又之を行ふに三箇條の注意すべきことあり下肢の如きは患者を安樂なる位置に伏せしめて血行を善良ならしめ上肢の際には坐しむ是より上より血液を下ろし速度を大とならしむるにあり第二は生長したる男子は下肢に毛を生ぜり是れ等は剃刀にて剃り去るを要す如何となれば手術のために毛根部に熱を持ち毛嚢炎を來すの恐れあるがためなり第三には患者の身體を裸出すべきことよして着衣の上より手術するときは費したる丈の力は皮膚面に及ばず勞多く功少きが爲なり其方法として八七種あり輕擦法强擦法揉捏法、叩打法壓迫法及振顫法、及關節に於けるマッサージとありて之を行ふには手術者に缺くべからざる四個の條件あり（一）手術者の手指は柔軟ならずして硬直なるは指頭を充分に運動せしむるを得ず時に炎症を起すことなきにしもあらずこの條件より女子の手指

を尤も賞用すされど下女又は其他の勞働者は男子の如く、手指は華奢ならず斯の如きは不可なる者なり第二には脂肪分泌多き油手の人は手術を行ふべからず止むを得ざればアルコールにて數回洗滌したる後「タルク」と稱する白色の粉末を手指掌等に撒布すべしと第三又は「さめ」の荒き手又は粗糙なる指は手術に適せざるものなれどもワセリンを指又は掌に塗りたる後丁寧に布を以て輕く拭ひべた付かぬ樣にして始めて手術し得べし第四には「コッサージ」は決して指先の業にあらず左右兩肢全部を働かすものなれば上肢の諸關節の完全なる運動を行ひ得ざれば効なし故に先づ患者を治療せんと欲せば以上の條件を具備せざるべからず然らざれば所謂骨折損の疲勞れもうけとなるべしといふ茲には其手術の方法を記載せざるも要するに輕擦法は「ヒポコンデリー」貧血、通利なきもの、欝血水腫又は腦充血腦貧血の場合にも効あるべく第二の揉捏法は輕擦法の如く平手を以て筋肉を下牀に向ひ壓し行くものにあらずして兩手を用ゐ一方は拇指一方は他の四指との間に筋肉を把り壓搾しつゝ上行するものにして輕擦法に勝るものにして此方法を行ひて効ある疾病は一般に云へば貧血又は營養不良の患者又は組織の衰へて弱きもの腹部の揉捏作用は直接に胃腸の働きに作用して大なる効あるものなり第三の强擦法と云ふのは病的產物を細かく碎きて循環系に入れ體外に排出せしむるにありて例へば溢血或は皮下滲出物のありたるときその部分の腫れ上るべしかゝる所に行ふ手術なり第四の叩打法は字の如く叩くことゝなるが日本の按摩の如く强く叩くにあらず輕く叩くにあり此法によれば主に筋肉の萎縮を治し且諸種の神經性の疼痛を減ぜしめ其他痙攣麻痺及び營養不良なる筋肉の部分に行ひて効能あり第五の振顫法は一部の痙攣麻痺神經痛その外蠕動を助けて糞便排出に便を與ふるものなり第六の壓迫法とは神經を壓迫する方法にして一部分の痙攣痲痺などに効あれどもこの方法は多く用ゐられず之れ其處置を誤れば却て有害なり第七の運動法は身體

の關節を働かすものにして血液の循環を旺盛ならしめ營養を増し關節の運動を自由にし弱き筋肉を強からしむる効ありと以下は省略す

▲小學生徒と飲料　東京府師範學校附屬小學校にては是迄子供に湯を呑ましむるに共同湯呑場て與へた所が衛生上の事柄と經濟上の點から調べた結果共同湯呑場を廢して各教室にて湯を飲ませることにした共同湯呑場にて湯を呑ましむることは衛生上から考ふると病毒の傳染の恐れもあり且各自勝手に飲むから飲み過ぎる結果を生ずるのみならず各自茶碗を洗ふ爲め無益に湯を費消する之を各自に與ふるといふ事にすると頻繁に茶碗を洗ふ必要もなく從て費用を省くことが出來る次に子供に與ふる湯は一日に何程與ふるかは各自の身體によりて異なるが原則として左に掲ぐる丈は定めてあると

一湯水を多く飲むと身體を虚弱ならしむ

一食前一時間食後二時間は湯水を與へざる方衛生上によろし殊に冷水を用ゆることは宜しからず

一激動の後冷水を多く飲用すれば感冒に侵さるゝ原因となる

要するに小供には出來得る丈湯水を少し與ふることが必要である因りて同校にては午前に一回與ふることゝして教室にて與ふる方法を取り實行しつゝあるが却て手數もかゝらず子供も湯水を要求すること至て少しといふ

▲吃の有力なる原因　吃矯正者として著名なる伊澤修二氏は豫て矯正を施したる一千名の生徒に付き其原因を調査されしに模倣によりて吃となれるもの三百六人内他人の模倣二百四十人親の模倣三十一人兄の模倣三人祖父母の模倣各々一人朋友の模倣二十人從者の模倣八人教師の模倣二人にして最大原因は模倣にあることにて小學時代に於て殊に然り故に若し少しにても吃りの素質あるものが模倣すれば忽ち傳染して遂に眞の吃となるべしといふ尚其他の原因としては

病後吃となりしもの四十、内咽喉病及熱八人癇五人、

卒倒一人、病症不明二十六人恐怖の爲め十二人内二階より落ちしもの七人火災三人溺水二人なりといふ

▲小兒と感冒　本月初旬以來寒氣の頓に加はりし爲め昨今インフルエンザに罹るもの多く殊に小兒に多き原因は母親の感冒をひかせまじと遂に厚着をさせ其上脊負袢天にてせおふは一般の有樣にてコハ小兒を愛するにあらずして却て感冒に罹らしむるので小兒は過度の溫度に汗を流し居るに背より下ろし急に寒冷に當てられ忽ち感冒に襲はるゝなり又障子の破れ或は戸障子等建付けに狂などあるときは感冒に罹るものあり其他小兒の頭髮を剃ることなども感冒を豫防する上に就きては尤も除くべきことなれば子を持たるゝ親達の殊に注意すべきことなり

▲人乳中の黴菌　人乳一グラムの中には黴菌の數が三百六餘ありて同量の牛乳中には七千十二で之れは左ほど毒のものでない固より牛乳は人乳より消化が惡く隨つて小兒の育ちもよくないと云ふことになつて居るが尚加藤博士の研究により黴菌の數によつて腸胃を損ふことを知り得たりといふ尚試驗には湯さましの水で母親の乳房の周圍をよく拭い然る後試驗せしに黴菌の數は四十一で普通の場合の約七分の一に減ぜりといふ之に依りて見るも乳房の淸潔法は尤も必用の事なりと此腐敗黴菌は寒暑の嚴しきときは發育少く春秋尤も甚し故に幼兒の腸胃加答兒を患ふる時期も又春秋二期に多き譯なりといふ

▲白米の麁惡　近頃奸商の玄米を速に白くする爲め房州砂を入るゝ者多しとて世間今や囂々と攻擊を加ふるに至りたるが此砂入米は幾分廉價なれば需用者も知りつゝ購求するものあり其害として近來營養不良者の增加し胃腸病者多きとは是等に原因することなしとせず脚氣症の如きも又此混砂白米に原因せざるなきかの疑ひありといふ日常缺くべからざる唯一の營養物に對し斯る奸譎不法慘刻の策を行ふものは宜しく法律の制裁を以て處罰せられたきものなり

▲精神病の原因　千種萬態なるも最近獨逸に於ける統計は千人に一人の割合にして文明の進歩と共に益

く〳〵多く發生するものなるが其原因の重なるものは何にかと言へば勿論下流社會に多くして精神の過勞よりも寧ろ酒精の中毒、惡病の遺傳等は其最大原因なりといふ

▲耳だれ　小兒には耳だれの多いもので親達の之に注意せざることは驚くの外なし耳だれより遂に聾になつた例はいくらもある此耳だれには其原因もいろ〳〵ありますが普通外聽道炎とて入湯の際など耳の中へ湯が這入ツたとか或は刺戟から起るもあり結核性の恐るべきものもある結核性であると骨迄犯すことゝなり容易に治癒すべきものでない其漏るゝ液の黃白色を帶びて厭ふべき臭ひのあるのは性質のよからぬものと心得鼓膜などは敗り腐らしては最早取り返しのつかぬことであるから耳だれとても油斷しては大害を釀すものと心得一文おしみの百損をせぬこそ怜悧にして勇氣あるものなり

▲電音診察　醫師坂本隆哉の發明されたる電音診斷器は姙娠中胎盤の位置をも明かに知り得べく姙娠十四日の後なれば必ず診定し得べしと其他肺病患者のある家庭に育ちし者と結婚する前に當人の健康を診斷する必要あるは勿論なるが此器によれば確然たる診斷を與へ得べしといふなほ月經其他に付ても研究を了れりとの事なるが果して然らば氏は醫學界に貢獻する所極めて多しといふべし

▲鼠は殘忍兇猛なり　性質狡猾、殘忍にして知慮に富み猜疑心深く同類互に相咬み相喰ふといふことは鼠の外には餘り多くない夫れも決して戀愛的などよりするのでなく所謂生存競爭の爲めに同類相咬み其肉を食ふのであるかゝる凶暴のものであるから出來得る丈鼠撲滅を國に於て毫も惑ふ處なし況んやペストの媒介者なるに於ておやトーマス氏は百二種以上としメリマム氏は二百二十種と稱すれども普通知られ居るものは黑鼠、褐鼠、甘鼠、野鼠、麝香鼠、南京鼠、獨樂鼠等で家鼠、野鼠、水鼠等に大別し得るといふ而して其智慮は邪推又驚くべきものにして每夜主人の睡眠せしや否やを知らんが爲め數定の鼠は

尾にて戸をたゝくも目さめず其返事なきに方りて大に亂暴するものありと又或人は牛肉に燐ハステーを塗り毒殺せんと圖りしに其死體の一向見當たらぬを不思議に思ひ居たるに或る附近の水道貯水池の落ち口にて鼠が其肉片を洗ひ居るを發見したりといふ其知慮は實に驚くべきものなり

▲久保武氏の報告された腸の長さ　日本人の小腸の長は同氏の調査によるに男子二十四名の屍體の內最大が二丈五尺三寸三分最小が一丈二尺四寸三分平均一丈九尺五寸女子五名に就ての調査は最大が二丈三尺四寸八分最小が一丈二尺三寸四分平均一丈七尺八、五、にして男女三十一名を調査せる平均の長さは一丈九尺五寸五分五十三名に就ての計算は平均一丈九尺九寸九分ありて而して日本人の小腸の長さは男女共に略々身長の四倍にして倘腸管全體の長の比較は男女共に身長の五倍に相當すると報告せられたり

▲衞生的家屋構造案　大阪私立衞生會にては先般來ペスト豫防を主要としたる着眼點より家屋の建築方法に關し河合、船越、眞壁、千下、小島等公私各方面の技術家並に數名の醫師等を委員とし成るべく實行し易き程度に於て衞生的方案を研究しつゝありしが幾度か協議を重ねし結果昨今漸く成案したるを以て昨日評議員會に附し決定の上其筋に向つて之を建議し將來長屋建築規則を改正さるゝ場合に之を參考して實行の運びに至らんことを求むるといふ

▲八丈島と肺病人　八丈島の氣候風土肺病に特効あるを傳へられ同地へ出療せるものゝ內或は平癒し或は死亡し其成績に依れば果して有効否やは判然せられざるも內務省は近々內野技師を派遣し科學的調査より顯微鏡檢査をも用ひ氣候風土の取調を爲さしむる筈にて倘毎日一回同島往復兵庫丸の設備に就ても充分の取調を爲すべしと

▲女醫の及第者　本年度第二回醫術開業試驗に及第したる婦人を擧ぐれば

金倉とく子（香川縣）　井上　かめ（福岡縣）
太田よしゑ（滋賀縣）　三浦　はま（長野縣）
町田まん子（長野縣）　仲里　巴子（長野縣）

梶　きん子(滋賀縣)　　小松ゆき子(神奈川)

等にして此八名は牛込區河田町なる東京女醫學校の出身者なるが別に

田阪みと子(廣島縣)　　瀬村　うめ(静岡縣)

中村まさよ(京都府)　　原　じつ子(長崎縣)

の四名及第したれば都合十二名となれるにて從來に其例なき事なり尚ほ女醫學校の出身者は素より東京にて試驗を受けしものなれど田阪みと子以下は何れも京都、福岡等にて受驗したりと云ふ

▲ペスト流行區域　過般來大坂兵庫和歌山其他各地方に發生せるペスト病は近頃大坂佐世保等にも續々發生し益々猖獗を極め新患者續出し病毒を傳播せしめ其流行區域も擴がり一般經濟界に及す影響も不尠に付內務省衛生局にては各地方廳に內訓し根本的の撲滅策を講ぜしむるとにし豫防法を勵行せしめ居れるが其流行の地方及び本年初發以來の患者概數は左の如し

東京府十五人、大坂府百六人、兵庫縣七十九人、廣島縣十人、山口縣三十一人、和歌山縣百五十一人、德島縣四人、福岡縣四人、福井縣一人、長崎縣四人、

▲全國衛生狀態　內務省衛生局最近の調査する處に依れば昨今全國各地方を通じ赤痢新患者續發し病毒を傳播し益々猖獗を極め居れるが全國に於ける本年初發以來の赤痢患者概數は一萬八千七百七十三人內死亡四千六十九人腸窒扶斯一萬八千九十二人內死亡四千百三十五人痘瘡四百五十七人內死亡百三人にして昨今赤痢病の就中流行する地方は兵庫、新潟、福岡、栃木、岐阜、石川、岩手、愛媛、宮城、秋田、廣島、愛知の數縣下なりと云ふ

▲實扶的里亞及猩紅熱の流行　昨今の不順の氣候につれ實扶的里亞患者續々發生し去月中の統計は四十七名にして死亡者は壹名なりと本病は今や手後さへせざれば多くは救助し得るに至りたるなれば此際小兒の感冒には充分注意すべきなり又猩紅熱も又々流行の兆あり二歲乃至四歲の小兒に多し元來同症は一種の觸接傳染病毒に由つて起る急性發疹にして創口

などより侵入し潜伏期は三日乃至一週間に及び嘔吐、喉頭痛、惡寒等の徴候に始まる而して體温は第一日三十九度以上にして一旦降下し四五日目に至り四十度に上る夫より再び降りて八九日頃平温に復すべし此間に於て胸部顔面等に鮮紅色の發疹ありて膿を持つ事あり若し同症に罹りたる時は速かに隔離し感冒を豫防して患者には酸性の飲料及び淡泊の食物を與ふべく發熱中は肉食など與ふべからず充分に醫師の注意に隨ふべしといふ

▲諸會景況　同仁會は去る十一日大隈會長邸に於て開會來會者千餘名伯爵の挨拶岡田博士岡田幹事の報告の後園遊會を催し文士の演劇等ありて極めて盛會なりしと●胃腸病院創立十週年紀念の爲めに去十日相州腰越なる氏の別莊に於て盛なる園遊會を開きしと●大日本婦人教育會にては去　日高輪なる毛利會長邸園に於て總會を開き許多の餘興演劇等ありて盛會なりしといふ

▲竹中成憲氏　氏は戰後東洋大陸に一大發展を試みんとして先づ來年度の事業として韓國平壤へ渡らるゝ筈也しが佐渡有志者の來意に任せ暫く該島に遊ばるゝとて來書に曰く小生も多年諸方周遊し「轉石不生苔」とて知人の苦情申向も御座候へ共必竟周圍の事情承知なきの故にて自身には確然たる理由の存する義に御座候幸ひに軀幹强壯素志一貫醫道を究むるの念は一日も軌道を脱せしと無之候云々末尾に曰く

浮浪多年又十年　舟人何處欲留船
半生强志宜醫國　壯氣將振佐島邊

寄せきたる浮世の波にまかせつゝ
いつこの浦に舟やとゝめむ

國のためつくす心のもゆる火を
けたすやいかに佐渡のはま風





質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりやすく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知のこと●本號の雜誌に登載する分は凡て前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　牛込　一會員

問　私事兎角寒冒に罹ること、多く誠に困り居り冷水摩擦も時々致し居候へども身體虚弱の爲め如何のものにやよき方法も有之候へば御教示被下度

答　老人幼兒及び病後等には冷水摩擦も少しく控へらるゝ方よろしこれも堪へず續けて行ふにあらざれば其効なきものと知らるべし虛弱者も程度問題であるが營養をよくし冷水摩擦を撓まず實行さるゝことは寒冒を防ぐ唯一の豫防法である別に他の方法とてもないが運動なども必要である總て暖かき所より俄かに寒むき處へ出るにはうんと下腹に力を入れ力氣味居るのは一の抵抗力となり感冒を防ぐへし然るに僅かの寒さも忽ち縮み上り所謂精神薄弱のものは神經作用により感冒に罹り易きものなり

質問者　新潟　一會員

問　私娘十歳に候が兎角のほせ性と見へ鼻血を出すことなどあり困り入候其時の應急手當伺上候

答　衂血の出たときは患者を靜かに仰臥せしめ頭部を少く高くし鼻の孔に脫脂綿或はガーゼを以て栓をなし前額及鼻上等に冷罨法をなして冷やし又は冷やかなる食鹽水或は冷水に醋又は明礬を加へたるものにて靜に鼻孔内を洗ふことよし其間深呼吸を行はしむるも効あり又簡法としては氷水を鼻より吸ひ込むこと効あり

質問者　群馬の一會員

問　私顏又は脊などはきめこまかに候へども手足などがあれ誠に困り候へば如何のものや御教示下さ

れ度願上候

答　手足の多汗症に罹るものもあり又は減脂症に罹るもありますが御許様のはかゝる名前の付いた病氣てないかも知れません手足のあれたるにしても其人の平素の職業にもよることとて手足を全く荒くつかひ(例へば農業の如き)寒風にさらされたり土などを取り扱へば夫れが爲め脂肪も取り去られて自然あれるようになるから家庭が許されるなら手足を成るべく大切に保護しあれぬ樣脂肪を塗り手袋足袋などをして寒風などにさらさぬ樣心掛けらるべし併し手足のあれるは糖尿病の特徴であれば(小便の多く出る病)注意せらるべし其他發汗減少症には神經系の病ある人や皮膚病患者其他癩病の人にも屢々見る處であります

總てあれ性の人にはペルッ水を作り置き塗布せらるゝことよし又本年も季節故ペルッ水の處法を書き記して御參考に供しましやう

苛性加里　一、〇
アルコール　四〇、〇
グリスリン　四〇、〇
薔薇水　一二〇、〇

其他又百分の五の硼酸ワセリンも又効能顯著なり

質問者　長野　一會員

答　長血に苦しみ云々は勿論子宮内膜等に故障のあるものならん迚も簡短なる紙上では判斷が出來ません要するに早く專門醫師の診察を受けられて手遅れなき樣なされたし遺憾ながら御答は出來ませぬ

二、の毎朝頭痛を感じ外氣の寒冷につれ足部冷へ逆上の氣味あり日中睡眠を催すとは必らず全身汗はみ動氣烈しく其原因療法との事に候へども是れも診察の上ならでは判斷が出來ませんが要するに成るべく海邊など溫暖の土地へ轉療せられ平常冷水摩擦營養療法等必要と認め候睡眠中汗ばみする御方は餘り平素强健の御方でないと云ふことがわかり升から以上の如く御すゝめするのですが併し良醫の診察を早く受けられて養生せられんことを望みます

質問者　芝　一會員

問　晝間は小便の間遠く朝より晩迄も便所に行かざるも夜は近く就眠より朝迄に二回も行くことあり何とか豫防法無之候や

答　晝間一度も小便に行かざるは餘り遠過ぎる位てありますが固よりの習慣であれば別に差支もありますまい夜間二度位は普通で大した御心配のこともありますまい夜間は腰部を暖める工夫をなし晝間も可成は便に行く習慣を付けらるべし小便のため多く厠に上るのはソレは膀胱の病でありますから早く醫師に見て御貰いなさい御質問の文面ては別に意に介する程のことゝは思へませぬ



大日本婦人衛生會記事

本會十一月例會

十一月三日開會の豫定なりしも當日は天長節の佳辰なれば第二土曜日に延期せしも又々種々止むなき差支生じ第三土曜日十七日に變更することゝなり發さに通報をなせし市内の會員方へは再通知を發したる次第なるが當日も諸々に集會ありしかば役員の差支も少からざりしが會員及傍聽者は二百餘名にして醫學博士遠山椿吉君には我家の病災と云へる演題にて氏の家庭に起りたる疾病の經驗談を頗る明快の辨を以て演述せられ次に富士川ドクトルの疾病及料理などに關し前回よりの續きを講話せられしが役員には濱尾副會長、松井子爵夫人、高木、岡田兩幹事丹波評議員等にして四時散會せり

●宇都宮支會長の上京　同支會長久保田不二子柴田副會長及外評議員二名は總會の節總裁宮殿下より御諭旨を賜りたる御禮の爲め上京せられ去月二十七日拜謁を賜り翌日直ちに歸縣せられたり

◉正誤　前號雜誌宇都宮支會大會へ賜りたる御諭旨中「このたひ」とあるは「こたひ」の誤植に付玆に正誤す

山形支會報告

十月例會

十月二十日午後一時より山形市女子師範學校内に於て例會を開く馬淵會長岩本副會長を始め會員傍聽生共約百餘名出席し左の有益なる講話ありて四時散會せり

一衞生上の偶感　友田醫學士

宇都宮支會報告

十月例會

十月五日宇都宮に於ける赤十字社支部内に於て例會を開き講師神野勇三郎氏出席衣服の改良に就きて詳細なる講話あり午後四時閉會せりといふ

因記す來四十年一月より毎會講話後同地高等女學校教師和田氏を聘し割烹に關する講話を聽聞すべき筈なりといふ

前月總會の節寄附左の如し

一音樂隊　會長　久保田不二子
副會長　柴田しづ子

一筑前琵琶　評議員　菊池より子
同　古口とみ子

一金五圓　副會長　柴田しづ子

一金八圓五拾錢　評議員　神野まつ子

以上

米澤支會

十月例會

十月十四日第二日曜日午後一時より米澤市松岬公園内松岬館に於て開會左の講話ありて午後四時散會せりと

一瘰癧の話　高橋達之助君

一長命法に就て　關新太郎君

一痳病の話　須貝周助君

因記　須貝講師は軍醫に職を奉せられしが今回歸國せられ同會の主趣を贊成せられ講師たることを承諾せられたり

新潟支會

十月例會

十月二十一日午後一時半より新潟市婦人敎育會と聯合の上新潟師範學校附屬小學校に於て例會を開き左の講話ありて出席者約七十名なりしといふ

一秋季料理法數種に就て　新潟高等女學校敎師　仙波　りか子

一分娩時の疾病　女醫　高橋　末子

一家庭敎育の改良に就て　新潟高等女學校長　涌井　良平君

高崎支會

第四十四例會

高崎高等小學校内に開く午後二時星野會長開會を告ぐ

第一席　村上講師「胃腸病原因及び食物保存法」と云ふ題にて第一の原因は暴食貪食、粗食、感冒、未熟の果物等第二は腐敗を防ぐとに勉めなければならぬ其手段煮沸、氷、酢、鹽、糖、乾等に就き懇篤雄辯を振はれたり

第二席　星野講師當婦人衞生會は戰時に於て充分軍隊に御盡しになつた事は戰中に承知嬉敗感たのでありまする猶戰後の經營に就ては今後全く此衞生會の必要はあります本日は「旅順に於ける衞生の狀況」と云ふ題にて御話しようと思ふ旅順は開城直ちに入港せるを以て他の人より好く旅順内のとを知るを得たり同港内露國時分の衞生談港は周圍皆石山其石は堅く日本の火打石の如きものなり其上に砲をすへ難攻不落と誇り居れり（同港内の寫眞數葉携帶）第一に何人も旅順に這入て目に立つ病院なり寫眞の說明之が要塞病院其向側に在るのは赤十字病院充分出來す夫れには禮拜場はなし患者は六七十人位にして餘程數澤に出來居る其次は町の院病山の山腹に在り地形狀好適地なり爰に又二階造りの立派な建物あり重に支那醜業婦を收容する婦人病院なり其次は海軍病院之は立派な病院、病室は十二棟あり其次は避病院なり港内に水道あり水源良なり露助時代に旅順の一部に供給し居れり其外は井戸なり之も中々立派なる者な

り何れも車仕掛なり軍隊に仕用し居る井戸四個あり暑獸場は海邊に在り砲臺に鐵管を引き燄を採り立派なものなり困難したのは食物殊に野菜の缺乏之れなり壞血病九千人其他赤痢腸窒扶斯腸胃病呼吸器病負傷者計八千人總計一萬七千人就中壞血病の如きは血液腐る爲に齒齦は破れ皮下に血斑を起し實に內地に於て見るとは出來ぬ景況なりき予は第一着手として井戸浚渫淸潔法施行せり次に水道復舊工事に着手せり未だ下水はなし露助は下水大池に溜め置き時々浚渫する隨分困難した勿論露助時代には蒸氣を利用し馬を以て運び居れり海軍病院の如き百事蒸氣を應用し居る寒國なれば防寒の設備充分なり一月頃「シャツ」一枚にて足れり外出するに外套を用ゆるのみ同港內に日本兵負傷者七人あり七十人收容の病室に五百人の患者あり八月頃收容の患者は古き方なり日本兵は看護婦は親切に扱ひ吳れた看護婦の云ふには受持患者は自分の長男なれば是非此病院に置て吳れと云ふ上等の看護婦は將校と同じ格なり上等の看護婦は少くも五六ヶ國の語に通じ居る故に貴族の應接は皆看護婦なり故に婦人の品位は日本杯より高尙なり之には感心せり自分は要塞部病院長なれば土地の衞生に關係し否監督しなければならず炭酸中毒と云ふとに就て西洋家屋にては間違ある其實例は湯殿にて卒倒せり餘程時間も經たれば是にて御免を蒙ります自分も又々大連第一關東陸軍病院に赴任するとなれば會員諸婦には相替らず本會の爲御盡瘁あらんと希へ謹て諸姉の健康を祈る云云

四時三十分閉會を告ぐ

本會特賛員陸軍二等軍醫正星野篠光君客月上旬凱旋せしに再び大連に御赴任のとに相成疾に御出發の豫定なりしも支會の爲め延期支會に於て會日を繰上げ第一日曜と致し同君に一場の演說を左の次第なり

此日會員出席者多く出席役員は

星野	相川	三橋	齋藤
財津	本多	村上	天利
長谷川	熊谷	相川はま子	高草木

講師は

岩崎　大山　小林　土谷
村上　星野

第四十五例會

高崎衛戍病院内に開く午後二時星野會長開會を告ぐ第一席乾講師「木伊乃化胎兒の實驗」と云ふ題にて懇篤述べられたり（筆記前に在り）第二席村上講師「梅菌及び培養法に就て」と云ふ題にて梅菌の性質及培養基等を實地に示し且つ顯微鏡を装置し目前に標本を製し諸姉の縱覽に供したり細菌分離法及び繁殖等に就き詳細説示會員に感動を與へたり勿論細菌學は村上軍醫正專門なればなり閉會を告げしは午後四時なりき

例會を衛戍病院内に開會せしは村上岩崎軍醫諸氏の厚意に依る支會謹て感謝の意を表す此日會員出席非常に多く役員諸姉は

村上　星野　本多　中村
天利　津　三橋　齋藤
長谷川

講師は

村上　乾　岩崎　塚越
土谷

第四十六例會

高等小學校内に開く午後二時開會第一席藤崎講師「婦人生殖器に就き」と云ふ題にて生殖器の標本携帯充分雄辯を振はれたり專門家のことなれば長時間懇篤に述べられたり會員に感動與へたると多大なりき閉會を告げしは午後四時なりき

○本會入會者

○麹町與田綾野子紹介
●神奈川縣三浦郡葉山村堀之内　通常會員　白岩　艶子

○石橋はや子紹介
●小石川巣鴨病院内　通常會員　野見山たき子
●仝　所　通常會員　増田　たけ子

○米澤支會入會者

○猪股春子紹介
●　甲種會員　大竹　よね子
仝　針生　さた子

○中山こと子紹介
● 甲 工村 ひさ子
● 仝 下山 いそ子
● 仝 佐藤 うん
● 仝 ザ松 かつ子
○松山副會長紹介
● 甲種會員 倉橋 ゑつ子
● 仝 五十嵐ちよ子
● 仝 松島 ふて子
● 仝 町田 ひて子
● 仝 前田 みよ子
○中山こと子紹介
● 乙種會員 九里 とみ子
● 仝 竹村 ひて子
● 仝 山口 つや子
● 仝 芦川 つき子
● 仝 大熊 さき子
○會員變更
●乙ヨリ 甲種會員 加藤 しん子
○宇都宮支會入會者
○江田せい子紹介
●宇都宮市大寛町 通常會員 大竹ちよう子
●仝市傳馬町 通常會員 赤羽 とく子
●仝市蓬萊町 通常會員 小林 あさ子
○藏井よし子紹介
●仝市鐵砲町 特別會員 高津 まつ子
●仝市元石町 通常會員 稲田 よう子
●仝市江野町 通常會員 須田 のぶ子
○堀内喜子紹介
●仝市塙田町 通常會員 桂 幸 子
○柴田じづ子紹介
●仝市旭町 通常會員 花輪みます子
●那須郡川西町 通常會員 猪股 なつ子
●宇都宮市一條町 通常會員 中村 あさ子
●仝市江ノ町 通常會員 藤澤 みな子
○林田とめ子紹介
●仝市小幡町 通常會員 赤坂・みつ子
●仝市塙田町 通常會員 五十嵐けい子
○支會事務所申込
●仝市旭町 通常會員 鈴木 松江子
○神野評議員紹介
●神野病院内 通常會員 島田 よし子

●仝　所　通常會員　湯澤きぬ子
●仝　所　通常會員　菊池菊枝子
●仝　所　通常會員　渡邊あさ子
●仝　所　通常會員　手塚とよ子

○會員變更

●通常改メ　特別會員　矢板はま子
●仝　特別會員　小野しげ子

○新潟支會入會者

○古閑初瀨子紹介

●新潟市横一番堀通　特別會員　松本みき枝

○高橋たゞ子紹介

●仝市中蒲原郡新津町　通常會員　石﨑はつ子

○澁川たま子紹介

●仝市學校町通二番丁五九八　通常會員　中村うめ子
●仝市四中町十一　通常會員　淸水りやう子
●仝市東堀通一番丁　通常會員　笹しげ子

○山形支會入會者

○岩本副會長紹介

●　特別會員　佐柳ちよ子

○會長馬淵よし子紹介

●　特別會員　亥角三千子

●幹事　佐柳ちよ子
●仝　高木孝子

○本會々員改姓名

○長野有賀なを江子改め　西村なを江子

轉居

●芝區高輪南町六十六へ　平山てる子
●大坂市北區上福島北二ノ二三一九へ　白藤りく子
●麴町區霞ヶ關外務省內吉田要作方へ　中村久眞子
●神戶市中山手通六ノ十六へ　松方龜子
●淸國遼陽野戰鐵道遼陽車輛事務所へ　服部鎭子
●淸國安奉鐵道班沙河鎭工場拭へ　西村なをえ
●新潟縣佐渡夷町へ　竹中成瀨君
●仝　所へ　竹中もと子
●麻布區宮村町十四へ　大島眞子
●麻布區市兵衛町二丁目へ　宮原かや子
●淺草區榮久町十五垣見方へ　中島照子
●新潟縣中頸城郡高田高田女學校內　藤井靜子
●大分縣中津町金谷　平山ひさ子

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必や衛生と相竢ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を賛成する通常者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす。

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓　特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢　支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立
事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立
事務所宇都宮市三條町石田氏方

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黒塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ケ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へとも送費とも必らす御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

明治三十九年十一月二十一日印刷
仝年十一月二十五日發行
婦人衛生雜誌第二百四號
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場